

多彩な暮らし、叶えるまち。ー 田園都市しおじり ー

檜川小中
両小野学園 版

地域と学校とが協働して取り組む
塩尻市 コミュニティ・スクール
2025年度 実践集

2025年度 塩尻市コミュニティ・スクール実践集のテーマ

10年間の成果を感じ、10年先を見据える

～これまで積み上げたものを次の時代につなげよう～

熟議

協働

マネジメント



[絵] 広丘小3年
高橋 璃菜 さん
「みんなで育てた
おいしいぶどう」



塩尻市 HP



塩尻市教育委員会

○巻頭言 塩尻市コミュニティ・スクール10年 そして ……1

塩尻市 教育長 佐倉 俊

■ **塩尻中学校区版 10年の取組**

- *塩尻東小…………… 2~23
- *塩尻西小……………24~45
- *塩尻中……………46~67

塩尻市CS&公民館フェスタ



■ **広陵中学校区版 10年の取組**

- *桔梗小…………… 2~23
- *広丘小……………24~45
- *広陵中……………46~67

■ **丘中学校区版 10年の取組**

- *片丘小…………… 2~23
- *吉田小……………24~45
- *丘中……………46~67



■ **塩尻西部中学校区版 10年の取組**

- *宗賀小…………… 2~23
- *洗馬小……………24~45
- *塩尻西部中……………46~67



■ **楢川小中学校・両小野学園版 10年の取組**

- *楢川小中(義務教育学校)…………… 2~51 (含特別寄稿)
- *両小野学園(小野保育園・北小野保育園・両小野小・両小野中)
……………52~97 (含特別寄稿)

● <特別寄稿>「コミュニティ・スクール10年を振り返る」 ……68~69

● 参考「地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿」 ……70~72 (98~100)

*平成29年度第1~2回学校運営協議会におけるGW(カレカレ)を通して共有したもの

◆ 「塩尻市教育委員会の窓から」 ……73~74 (101~102)

塩尻市コミュニティ・スクール 10年 そして

平成 28 年 4 月、塩尻市内のすべての小・中学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクールとしての活動がスタートしました。そのコミュニティ・スクールは、今年度 10 年目（両小野学園は 11 年目）という節目の年を迎えました。これまでの各校のコミュニティ・スクール活動の推進に、ご理解ご協力を賜りました、すべての皆様に感謝を申し上げます。

この取組みは、「一人ひとりの育ちに、ていねいに向き合う教育」を理念とした塩尻市教育振興基本計画において、育てたい人間像として定めた、「社会を生き抜く力を備えたひと、郷土を知り、誇りと愛着をもったひと」の育成に、コミュニティ・スクールというツールが最も有効であると考えたことから始まりました。この 10 年間を振り返ると、子どもたちに社会を生き抜く力や郷土に対する誇りと愛着を育もうと、地域と学校が力を合わせ一生懸命取り組み、多くの「こと」や「もの」を創り上げてきました。その結果、その学校らしい、またその地域らしい特色ある活動が創り出され、徐々にステップ・アップし、10 年たった今では伝統となりつつある「こと」や「もの」もあります。そして、一番の成果として、子どもたちを中心として、地域の多くの「ひと」がつながりました。

一方、軌道に乗り出したコミュニティ・スクール活動でしたが、令和元年度末からの約 3 年間は、コロナ禍により、創り上げてきた多くの活動が制限を受け、足踏みをしました。各校が分散登校やオンライン授業、学級・学年閉鎖という出口の見えないトンネルの入口に立たされた中でも、各コミュニティ・スクールは、校内の消毒、オンラインでの活動や感染対策を万全にした上での活動などに創意工夫して取り組んできました。令和 2 年度の実践集のテーマは「アンダー コロナ禍 未来につながる大きなチャレンジ！」です。この困難な状況に対しても、地域と学校が力を合わせ、前を向いて乗り越えてきたチャレンジが、今につながっています。

コロナ禍を経験した私たちは、子どもたちの豊かな成長には、子どもたちが多様な「ひと・こと・もの」と出会い、交流するなどの体験活動が欠かせないこと、また、よりよい地域づくりには、学校を核として「ひと」がつながり、「こと」や「もの」を創造していく営みが欠かせないことを実感しています。この実感をもとに取り組んできました、ここ数年のコミュニティ・スクール活動は、コロナ禍前に戻るだけではなく、さらに充実、進化を遂げています。そのような他校の実践に学びつつ、これからの 10 年を見据えて、自校の実践の取組みを広げたり質を高めたりするために、本実践集をご活用いただければ幸いです。

塩尻市教育長 佐倉 俊

檜川から



未来にはばたく

そして…

～輝く夢を携えて・気魄に燃えて～



感じる

切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心

- 地域を知る
- ◇学びの基礎を習得する



檜川の学びを支える3つのK

語り合う

協働し、未来の自分を想像しようとする力

- 地域と協働する
- ◇自ら問いをみつけ、対話的に学ぶ態度を習得する

考える

自ら問いを持ち、主体的に探究する力

- 地域とかかわる
- ◇自ら学ぶ態度・方法を習得する

義務教育学校で学ぶ

少人数を生かしたきめ細やかな学習

専科教員による授業・TT支援

連学年・縦割り班による授業・諸活動

外国語・国際交流活動

コミュニケーション能力

ふるさと檜川に学ぶ

漆器産業：ものづくり

観光（宿場町）産業

地域のひとから学ぶ

地域のひとと学ぶ

自然

文化

歴史

1年間の主な学校行事



4月

- 入学式・1学期始業式
- 避難訓練
- 授業参観・PTCA総会
- ボランティア顔合わせ会・学校運営協議会・地域教育協議会
- 1年生を迎える会
- 春の交通安全教室
- 9年修学旅行



5月

- 櫛川探検
- たてわり清掃
- わかば給食
- PTCA作業
- 運動会



- ならにこカフェ 漆器販売会
- 授業参観・地区懇談会
- ふるさと漆器学習
- プール開き

6月



9月

- 防災訓練
- スペシャル・グローバル・デー
- 4年森の健康診断
- 櫛輝祭（文化祭）



8月

- 林中に学ぶ（公民館連携講座）
- 2学期始業式



7月

- 4・5年臨海学習
- 8年キャリア研修旅行
- PTCA救急法講習会
- 1学期終業式 夏休み
- 後期課程個別懇談
- 8年職場体験
- 学校運営協議会
- 川中に学ぶ（公民館連携講座）



11月

- なかよし月間
- 避難訓練
- ふれあい給食
- やきいも会
- 授業参観日
- オーストラリアとの交流



12月

- 学校運営協議会②
- 保護者懇談会
- 2学期終業式
- 年末休業



10月

- イワナの産卵場学習
- 6年修学旅行
- 5,6年漆器販売会
- 保小なかよし交流
- お話の時間プレミア
- なら大フェスタ



1月

- 年始休業 冬休み
- 3学期始業式
- ふるさと漆器学習
- スキー教室



3月

- 9年生を送る会
- 3学期終業式
- 前期課程修了式
- 卒業証書授与式
- 年度末休業



2月

- 学校運営協議会③
- 地域教育協議会②
- ボランティアお礼の会
- 6年生ありがとうの会



檜川小中学校コミュニティ・スクール

檜川から未来へはばたく そして・・・



檜川小中学校は1年生から9年生と一緒に学んでいます

檜川小中学校は市内唯一の義務教育学校です。令和6年度より小規模特認校として塩尻市内のお子さんが一定の条件のもと通える学校となりました。

1年生から9年生まで82名が、一つの校舎で学んでいます。地域とともに特色ある教育をすすめています。

様々な先生との授業

職員の専門教科による授業がすすめられています。



英語の授業



算数の授業



理科の授業



体育の授業



家庭科の授業



美術科の授業

地域の方から学ぶ学習

自然・伝統・産業・人・歴史を題材に、教科を横断した学習を行っています。地域の方々とも連携し、課題解決力を養っています。



木曾漆器祭・奈良井宿場祭で、学校を開放し、全校でお客様をもてなします。(全校:ならにこカフェ)



地域の歴史・文化を知り、地域の特色や課題について考えました。(後期:キャリア研修旅行)



地域の特色や課題から自分たちができることを考えました。(後期:地域貢献活動)

檜川の学びを支える「3つのK」

檜川小中学校では、学びを支える「3つのK」(感じる・考える・語り合う)を大事にしています。地域とともに、檜川から未来にはばたきそして…夢や志をもち自立して生きていく児童生徒を育てていきます。

感じる

切磋琢磨し、
多様性を包み込む豊かな心



考える

問いを持ち主体的に探究する力



語り合う

協働し、未来の自分を
想像しようとする力



檜川の学びを支える地域のみなさん

学校運営協議会、地域教育協議会を中心に、檜川の児童生徒を地域のみなさんで支えます。



4月の地域教育協議会ではボランティアさんと学校職員で今年の活動について話し合いました。子どもを育てるために何ができるか、話し合いました。

教育活動

地域の方やボランティアの皆さんに学びを支えていただいています。地域の自然・文化・歴史・ひと・もの・こと、に関わりながら体験的に学んでいます。ふるさとに愛着や誇りを感じ、ものごとや学習に自分から働きかける主体性を育みます。



オーストラリアとの交流
年3回、インターネットでライブ交流をします。積極的に会話をしました。



スペシャルグローバルデー
模擬海外旅行やプレゼンテーション、フリートークにより国際感覚を養います。



プリンタプロジェクト
エプソンの協力により、実物を通して他国の文化を知ることができました。



短期留学生の受け入れ
短期留学の友達と共に学ぶ中で、他者理解、多様性の受け入れを学びます。



たてわり活動

様々な場面でたてわり活動を行い、他者への配慮、責任感を養います。



たてわり給食

年に2回、たてわり班で給食を食べます。写真は春の「わかば給食」の様子です。



たてわり清掃

期間を決めて行います。上級生も下級生も自分の分担に責任を果たします。



5年～9年 児童生徒会

後期生を目標に、5年から9年生までが協力し活動をしています。



連学年活動

連学年、異年齢での授業を行っています。写真は3年生企画のお楽しみ集会です。



地域探検

積極的に地域に出かけ学びます。後期課程でも改めて地域を探究します。



自然の中で遊ぶ

前庭の自然の中で五感を働かせて遊びます。枝や小石で創造的に遊びます。



畑づくり

地域の方が土を耕やしてくださいます。今年はサツマイモが大豊作でした。



保育園との交流

隣接の環境を生かし、保小の交流活動を繰り返し行っています。



朴葉まきづくり

郷土食を作りながら異世代の方と交流します。郷土への愛着も育みます。



森の健康診断

塩尻市森林公社と連携し、森林と環境・防災の学習を体験的に学習します。



羽淵キウリの学習

栽培に取り組んでいる方の思いに触れ、地域の宝を大切に受け継いでいきます。



イワナの産卵場づくり

奈良井川源流で、イワナの環境保全活動に取り組みました。



萌生の里との交流

高齢者を思いやり相手に合わせて伝えたり、楽しませたりすることを学びます。



育てる漆学習

毎年一回、給食で使う自分のお盆に漆をかけます。卒業まで大切に使います。



ならにこカフェ

相手のことを考えながら接客します。コミュニケーションの力も高めます。



ならにこ漆器会社

活動の理念をもとに組織を立ち上げ、協調しながら販売活動を成し遂げていきます。



檜川PR活動

木曽漆器の広報活動を行い、地域の伝統文化PRに貢献します。



園児さんとのふれあい

中学生が幼児とふれあう中で、他者への配慮や幼児への温かいまなざしを育みます。



運動会

後期生、地域も一緒に楽しみます。6年生が主体となって進めます。



文化祭(檜燐祭)

後期生主体で進めます。合唱、個人発表、表現、たてわり企画などを発表しました。



漆の木工製作

前期課程で習った摺り漆の技法で、制作した木工作品を仕上げます。



キャリア研修旅行

他地域の街づくり、働く人々との対話から、自分たちを見つめ直します。



職場体験

体験やインタビューから、働く人の思いや考えを体験的に学びます。



江戸ウィン平沢

地域を盛り上げたいという
願いから主体的に企画し課
題を次につなげました。



謎解きブックづくり

学んできたことを生かし、
地域の観光ガイドブック作
成に協力しました。



江戸ウィン

企画を立案し実行する中で
協調性や交渉力、柔軟な対応
力等を身につけていきます。



なら大フェスタ

他者意識をもって発表し、学
習の価値をとらえなおし、次
年度の活動につなげます。

公民館 放課後講座 なららクラブ

檜川公民館主催で、地域の方を講師にした放課後講座「なららクラブ」を開催して
います。学校の放課後を利用し、1年生から9年生までだれでも自由に参加できま
す。



工 作



ニュースポーツ



ベースボール



謎技かるた

公民館 特別講座 川中に学ぶ／林中に学ぶ

「川中に学ぶ」「林中に学ぶ」は、自然豊かな檜川小中をフィールドに
した、夏休みの特別講座です。川遊びや森遊びのプロとともに、
アクティビティを楽しみます。



川中に学ぶ (檜川公民館講座)



林中に学ぶ (檜川公民館講座)



ふりかえり

地域の方々との関わりを取り入れた学習により、社会性や多様なコミュニケーション能力を育むとともに、地域社会における自己の役割とキャリア意識の醸成という面で成長につながってほしいと願っています。全国学力学習状況調査においても前期課程で「難しいことにも失敗を恐れず挑戦する」「自分にはよいところがある」といった挑戦意欲と自己肯定感が非常に高いことがうかがえました。

この高い自己肯定感をエネルギー源として、より主体的・協働的な課題解決学習や探究活動を全教科で展開していくことが求められます。「なら大(総合的な学習の時間)」では、生徒自らが問いを立てて探究する経験を通し、学習への内発的動機付けを高めることを目指していく必要があります。教師は、生徒の「できる」という自信を「知りたい」「やってみたい」という知的好奇心に結び付けるため、ファシリテーターとして伴走する姿勢を大切に、次年度以降の学習活動を仕組んでいきたいと思ひます。

檜川小中学校コミュニティ・スクール

檜川から未来へはばたく～輝く夢を携えて、気魄に燃えて～



小規模特認校制度がはじまりました



檜川小中学校は小規模特認校となりました

檜川小中学校は市内唯一の義務教育学校で、令和6年度からは小規模特認校となりました。お住いの住所地の通学区を越え、塩尻市内全域から一定の条件のもと、特別に児童生徒の入学・転入学を認める「小規模特認校制度」がはじまりました。

義務教育学校の教科担任制

職員が、前期課程（小学生）後期課程（中学生）をまたいで授業を行っています。専門教科の教員による授業がすすめられています。



専科による英語



後期職員による前期の算数



後期職員による理科



後期職員による前期の体育



前期職員による後期の家庭科



前期職員による後期の美術科

生活科・総合 ～ならかわ大学～

地域の自然・伝統・産業・人・歴史を題材に、教科を横断した学習を行っています。地域の方々とも連携し、課題解決力を養っています。



木曾漆器祭・奈良井宿場祭で、学校を開放し、全校でお客様をもてなします。(全校:ならにこカフェ)



地域の歴史・文化を知り、地域の特色や課題について考えました。(後期:キャリア研修にむけて)



地域の特色や課題から自分たちにできることを考えました。(後期:地域貢献活動)

檜川の学びを支える「3つのK」

檜川小中学校では、学びを支える「3つのK」・・・「感じる」「考える」「語り合う」を大事にしています。そして、「檜川から未来にはばたく（夢や志をもち自立して生きていく）児童生徒を育むために地域の皆さんの支援を得て、地域の自然・文化・歴史を学ぶ学習に取り組んでいます。

感じる

切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心



イワナの環境整備



基地づくり



保育実習

考える

自ら問いを持ち、主体的に探究する力



江戸ウィンin平沢の準備



漆器販売にむけて



前期・後期の児童生徒会

語り合う

協働し、未来の自分を想像しようとする力



江戸ウィンふりかえり



キャリア研修旅行



地域の皆さんと語り合う後期生

檜川の学びを支える地域のみなさん

学校運営協議会、地域教育協議会を中心に、檜川の児童生徒を地域のみなさんで支えます。

学校教育目標「檜川から未来へはばたく」子どもを育むために何ができるか熟議しました。地域教育協議会ではボランティアさんと学校職員で今年の活動について話し合いました。



職員と地域の皆さんで熟議



PTCA 全校での作業



地域の方とウォーキング

特色ある教育活動 ～地域とともに

本校では様々な学習活動で地域の方やボランティアの皆さんに学びを支えていただいています。地域の自然・文化・歴史を「ひと・もの・こと」と関わりながら体験的に学び、ふるさとに愛着や誇りを感じ、ものごとや学習に自分から働きかける主体性を育みます。



地域の方と熟議

学校運営協議会の熟議で、8年生と地域の皆さんで熟議をしました。



お話の時間 プレミア

読み聞かせボランティアの方から、読み聞かせをいただいています。



地域のお店見学

低学年は、檜川地区でたくさん学びます。写真は地域の豆腐屋さん見学。



朴葉巻き作り

地域の方の支援をいただきながら郷土の伝統食作りを学習しました。



職員研修 工房見学

夏休みを利用し、職員も地域の方から学び研修をします。漆器工房見学の様子。



麓川地域探検

学校支援の方と一緒に地域の探検に出かけ、地域の良さを感じます。



羽淵キュウリの栽培

地域の方を講師に、郷土の伝統野菜について学び、栽培や調理に挑戦しました。



ならにこカフェ

地域のお祭りに学校全体で取り組みます。カフェを開きお客さんをもてなします。



ふるさと漆器学習

檜川で続いてきた漆塗りの学習では、自分のお盆や商品を塗ります。



ならにこ漆器会社

5, 6年生を中心に漆器の制作と販売に取り組みます。



森の健康診断

塩尻市森林公社と連携し、理科、社会科（森林と環境、防災）の学習をします。



林中に学ぶ

公民館と連携し、檜川小中学校ならではの森遊びを満喫します。（希望者）



漆器工房見学
社会科学で、地域の漆工房や曲げ物工房を見学しました。



ならかわ探検
後期課程になり、改めて地域を探検し地域への理解を広げ課題をとらえます。



地域貢献活動（平沢）
地域の特色や課題から自分たちにできることに取り組みました。



地域探訪
学習支援ボランティアの方に教わりながら、地域の良さを再認識しました。



たてわり活動
一年を通じてたてわり班で活動します。写真はわかば給食の様子。



檜輝祭（文化祭）
後期生が主となり運営します。たてわりで楽しむ企画もあり全校で楽しめます。



ならだいいフェスタ
一年間の学びをふりかえり、まとめます。言葉やプレゼンで表現し伝えます。



スペシャル グローバル デイ
外国の方を招き、英語や異文化に慣れ親しむ特別な一日です。

放課後講座 なららクラブ

一年間を通じて、地域の方を講師にした放課後講座「なららクラブ」を開催しています。各学期に分け、年間 12 回の講座です。講座の開催回数は、講師のスケジュール等で調整し、1 年生から 9 年生までだれでも参加できます。

- 今年度の講座
- 工作
 - ニュースポーツ
 - 将棋
 - ヒーローアクション
 - プログラミング
 - ベースボール
 - 手芸葉細工



地域の方を講師にした
なららクラブ
(ヒーローアクション)



地域の方を講師にした
なららクラブ
(ニュースポーツ)



地域の方を講師にした
なららクラブ
(将棋)

成果と課題

- 今年度も学校運営協議会・地域教育協議会と協働して学校運営をすすめてきた。多くの地域の方が、知恵を出し、共に活動し、児童生徒のために力を出してくださっている。地域の方の温かいご支援・ご協力をいただくことで児童生徒の豊かな学びが成立している。
- 地域の自然・文化・歴史を学ぶことで、檜川のよさを感じ、よさや課題を認識し、自分たちの思いや取り組みを伝えたいと、主体的に活動する姿が見えてきた。児童生徒は、地域から愛情を受け支えていただいていると感じ、地域への愛着や感謝の思いが生まれ、お互いを大事しながら生活していく心情、実践意欲が育まれている。

檜川小中学校コミュニティ・スクール

檜川から未来へはばたく～輝く夢を携えて、気魄に燃えて～



義務教育学校2年目の歩み



義務教育学校2年目のスタート

【塩尻市立檜川小中学校】

校舎は塩尻市の最南端、標高917mの山あい位置し、宿場町・漆工町が残る歴史と文化が息づく地域にあります。南に鳥居峠、校舎横から奈良井川のせせらぎが聞こえ、豊かな自然に囲まれた環境で1～9年生84名が学びます。令和4年度、木曾檜川小学校と檜川中学校が統合し義務教育学校となりました。令和6年度からは小規模特認校となります。

教科担任制の推進

職員が、前期・後期をまたいで授業を行い、教科担任制を進めました。専門教科の教員による授業の様子です



英語専科による1年生の英語



後期職員による前期4年生の算数



後期職員と連携した前期の理科授業



体育専科による前期1, 2年生の鉄棒の授業



後期職員による前期の音楽授業



前期職員による後期の授業（美術科、家庭科）

キャリア教育 ～ならかわ大学～

地域の自然・伝統・産業・人・歴史を題材に実践的なキャリア教育を行いました。地域の方々と共に取り組み、課題解決力を育みました。



ふるさとの自然・文化・産業・について学びました。
(前期：ならにこカフェ)



地域の歴史・文化を知り、地域の特色や課題について考えました。
(後期：中山道キャリア研修)



地域の特色や課題から自分たちにできることを考えました。
(後期：地域貢献活動)

檜川の学びを支える「3つのK」

檜川小中学校では、学びを支える「3つのK」・・・「感じる」「考える」「語り合う」を大事にしています。そして、「檜川から未来にはばたく（夢や志をもち自立して生きていく）」児童生徒を育むために地域の皆さんの支援を得て、地域の自然・文化・歴史を学ぶ学習に取り組んでいます。

感じる

切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心



1・2年 小川で遊ぼう



2年 生き物を見つけよう



8年 保育実習

考える

自ら問いを持ち、主体的に探究する力



7・8年 ならかわ探検



3年 中の茶屋美化活動



6年 漆器販売

語り合う

協働し、未来の自分を想像しようとする力



7・8年 檜川小中の魅力発信



8年 キャリア研修旅行



9年 江戸ワイン（地域活動）

檜川の学びを支える地域のみなさん

学校運営協議会、地域教育協議会を中心に、檜川の児童生徒を地域のみなさんで支えます。

学校教育目標「檜川から未来へはばたく」子どもを育むために何ができるか熟議しました。地域教育協議会ではボランティアさんと学校職員で今年の活動について話し合いました。



4月 第1回学校運営協議会



4月 ボランティア顔合わせ会



4月 地域教育協議会

特色ある教育活動 ～地域とともに～

本校では様々な学習活動で地域の方やボランティアの皆さんに学びを支えていただいています。地域の自然・文化・歴史を「ひと・もの・こと」と関わりながら体験的に学び、ふるさとに愛着や誇りを感じ、ものごとや学習に自分から働きかける主体性を育みます。



たてわり活動

1～9 年は1年を通じて様々なたてわり活動をします。写真はたてわり清掃。



お話の時間 プレミア

読み聞かせボランティアの方から、読み聞かせをいただいています。



川遊び、虫探し

低学年は、檜川の自然に親しみます。川遊びや自然遊びの中で生き物に親しみます。



朴葉巻き作り

地域の方の支援をいただきながら郷土の伝統食作りを学習しました。



和太鼓学習

地域の方に教わった太鼓をならにこカフェで披露しました。



鳥居峠探検

地域の方と一緒に地域の探検に出かけ、地域の良さや課題を発見。



羽淵キウリの栽培

地域の方を講師に、郷土の伝統野菜について学び、栽培に挑戦します。



ならにこカフェ

地域のお祭りに学校全体で取り組みます。カフェを開きお客さんをもてなします。



ふるさと漆器学習

昭和から続く漆塗りの学習では、自分のお盆や商品を塗ります。



ならにこ漆器会社

5, 6年生を中心に漆器の制作と販売に取り組みます。



川中で学ぶ

公民館と連携し、檜川小中学校ならではの川遊びを満喫します。(希望者)



林中で学ぶ

公民館と連携し、檜川小中学校ならではの森遊びを満喫します。(希望者)



森の健康診断

塩尻市森林公社と連携し、森の大切さを学びます。学校近くで間伐を体験。



ならかわ探検

地域について 8 年生が 7 年生へガイドし、地域への理解を広げます。



PR活動

これまで学んできた地域の良さをパンフレットや動画に表現します。



Tシャツの染め物

学習支援ボランティアの方に教わりながら個性ある T シャツを作りました。



地域活動 江戸ウイン

地域とかかわりながら自分たちの願いや課題の解決に取り組みます。



檜輝祭 (文化祭)

後期生が中心になり運営します。たてわりで楽しむ企画もあり全校で楽しみます。



ならだいフェスタ

一年間の学びをふりかえり、まとめます。言葉やプレゼンで表現し伝えます。



交通安全見守り

駐在さんは時折昇降口に立ち児童生徒の様子を見守ってください。

放課後講座 なららクラブ

一年間を通じて、地域の方を講師にした放課後講座「なららクラブ」を開催しています。各学期に 5 回ずつ、年間 15 回の講座です。講座の開催回数、講師のスケジュール等で調整し、1 年生から 9 年生までだれでも参加できます。

今年度の講座 (第1, 2回)

折り紙

かけっこ

笹細工

将棋

ダンス

ベースボール

ニュースポーツ

ギターバンド体験

ヒーローアクションクラブ



(ダンス講座)



(ニュースポーツ講座)



(将棋講座)

成果と課題

○本校は、学校運営協議会・地域教育協議会と協働して学校が運営されている。地域の支えがあってこそその教育が多く、地域の皆さんから学校への温かいご支援・ご協力をいただくことで児童生徒の豊かな学びが成立している。11月のなら大フェスタは、そのまとめの場である。

○地域の自然・文化・歴史を「学びを支える3つのK」を視点として系統的に、段階的に学ぶことで、檜川のよさを知り、そのよさを伝えたいと願い主体的に活動する姿が見えてきた。地域から愛情を受け、支えていただいていることを感じ、児童生徒は地域への愛着、地域のみなさんへの感謝の思いが生まれ、お互いを大事にしながら生活していく心情、実践意欲が育まれている。

□1～9年生が学ぶ義務教育学校のよさを生かし、地域の皆さんとの交流や協働活動を発展させ、学校も地域も元気になる学校づくりを進めていきたい。児童生徒が地域へ働きかける地域貢献や地域づくりへの参画についてさらに考えていきたい。



榎川小中学校コミュニティ・スクール

榎川から未来へはばたく～輝く夢を携えて、気魄に燃えて～

義務教育学校 榎川小中学校スタート！



令和4年4月1日、旧木曾榎川小学校と旧榎川中学校が統合し、旧小学校を増築して校舎とし県下4校目の1～9年生96名が学び合う義務教育学校として開校しました。

校舎は塩尻市の最南端、標高917mの山あいであり、南に鳥居峠、校舎横には奈良井川のせせらぎが流れ、豊かな自然に囲まれています。さらに宿場町・漆工町が残る歴史と文化が息づく地域にあります。そして地域の皆様に温かく支えられ新たなスタートを切りました。

4月6日 開校式・始業式・入学式



開校式 赤羽高志教育長 開校宣言



始業式 山本秀樹校長 あいさつ



児童生徒会長（9年生）あいさつ



入学式 新1年生6名入学



歓迎の言葉 児童生徒会副会長（6年生）



式に臨む児童生徒（2～9年生）

「地域とともにある学校」を目指して

学校教育目標「榎川から未来へはばたく」（夢や志をもって自立して歩む）子どもを育むために何ができるか熟議しました。地域教育協議会ではボランティアさんと学校職員と合同で話し合いました。



4/11 第1回学校運営協議会



4/20 ボランティア顔合わせ会



4/20 地域教育協議会

地域と育む 学びを支える「3つのK」

檜川小中学校では、学びを支える「3つのK」・・・「感じる」「考える」「語り合う」を大事にしています。そして、「檜川から未来にはばたく（夢や志をもち自立して生きていく）児童生徒を育むために地域の皆様のご理解とご支援を得て、地域の自然・文化・歴史を学ぶ学習に取り組んでいます。

感じる 切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心 ～地域を知る～



1・2年 小川で遊ぼう



2年 贅川太鼓を学ぼう



3年 地域をたんけんしよう

考える 自ら問いを持ち、主体的に探究する力 ～地域とかわる～



4年 羽淵キウリを栽培しよう



5年 園児と交流しよう



6年 漆器販売をしよう

語り合う 協働し、未来の自分を想像しようとする力 ～地域と協働する～



7・8年 キャリア研修旅行（南木曾・大桑）



8年 Nプロジェクト（檜川魅力発信活動）



9年江戸ウィン（地域活性化活動）

学びを支える学習支援

様々な学習活動で地域の方やボランティアの皆さんにご協力をいただくことで児童生徒の学習効果が高まり、豊かな学びへとつながっています。



読み聞かせ
(全校 朝の時間)



切り絵支援
(4~6年クラブ)



彫刻支援
(6年図工)



地域学習支援
(7・8年総合)



ミシン・裁縫支援
(9年家庭科)

※その他の学習支援 川遊び(1・2年) 賛川太鼓(2年) 地域探検(3年) 羽淵キウリ(4年) ソルガム(5年) 漆器販売(6年) ふるさと漆器学習(3~5年) 榎川探検(7・8年) SDGs学習(7年) Nプロジェクト(8年) 江戸ウイン(9年)
(「環境整備支援」運動会準備・片付け 学級花壇・畑・校庭整備 「交通安全支援」登下校見守り 交通安全教室 マラソン大会)

地域とともに「特色ある教育活動」

地域の協力と支援をいただき、地域の自然・文化・歴史を「ひと・もの・こと」と関わりながら体験的に学び、ふるさとの愛着や誇りを感じ、ものごとや学習に自分から働きかける主体性を育みます。



ふるさと漆器学習(3~5年)

伝統工芸士さんを講師として、漆器の特徴・よさ、ものづくりの楽しさを体験的に学びました。 ※3学期は全校(1~9年)が体験学習を行います。



榎川探検(7・8年)

奈良井・木曾平沢・賛川について調べ学んだことを8年生が7年生へガイドし、3地区を散策しました。この学習をもとに学年総合で学びを深めます。



川中に学ぶ(4~8年希望児童生徒・保護者)

7/9(土)、インストラクターの指導のもと、学校横を流れる奈良井川に入り、川の危険、安全な遊び、自然の豊かさを体験的に学びました。



林中に学ぶ(1~6年希望児童・保護者)

8/4(木)夏休み中、講師を招き、学校内の林でネイチャーゲームをしたり、火起こし体験を行ったりして、自然で遊ぶ楽しさを味わいました。



森の健康診断(4~6年希望児童)

8/19(金)夏休み中、市森林公社の方を講師として、学校周辺の植林の状態を診断し、伐採体験を行い、森林の働きや管理の大切さを学びました。



コミスク・フェスタ in 榎川(全校)

11/15(水)1~9年が生活・総合の授業で学んだ地域学習を保護者・地域の皆様に発表しました。発表を通して、ふるさとのよさを実感しました。

地域とともに「放課後クラブ」

10/13 (木) ~27 (木) のうち5回にわたり、1~8年生を対象にした自由参加の放課後講座「なららクラブ」を行いました。5つの講座を開設し、講師を地域の方(将棋は前教頭先生の山下先生)にお願い活動を行いました。来年度の実施を検討するため試験的に行ったものでしたが、多くの児童生徒が参加し、笑顔がいっぱいになる活動となりました。※来年度は年間を通し実施することを検討しています。

① 陸上

② ニュースポーツ

③ バトミントン

④ 手芸

⑤ 将棋



	講座	参加可能学年	開催日数	参加人数	延べ人数
参加実績	① 陸上	1~8年	4	12	30
	② ニュースポーツ (ボッチャ)	1~8年	5	12	33
	③ バトミントン	5~8年	5	12	43
	④ 手芸	5~8年	2	6	11
	⑤ 将棋	1~8年	5	13	42

児童生徒

実施後の感想

○1年生から8年生まででクラブをやって、楽しむことが出来たし、良い経験になりました。
 ○講師の先生が、一人ひとりに丁寧でやさしく教えてくださったから、とてもあたたかい空気で、緊張することなく活動することができました。楽しくて仕方ありませんでした。

講師

○たくさん笑ってたくさん学べるようにしたいです。徐々に子どもと接してとても楽しかったです。
 ○子どもたちと一緒に楽しむことができてうれしかったです。学校の特色として今後活動が続いていけたらよいと思いました。

＜檜川小中学校コミュニティ・スクール 成果と課題＞

【成果】

- 義務教育学校がスタートし、「檜川から未来へはばたく」児童生徒の育成に向けて、学校運営協議会・地域教育協議会での熟議を通して、活動へのご支援・ご協力をいただき実践につなげることができた。またその成果を児童生徒が11月にコミスク・フェスタで保護者や地域の方へ発信することができた。
- 地域の自然・文化・歴史を「学びを支える3つのK」を視点として系統的に、段階的に学ぶことで、檜川のよさを知り、そのよさを伝えたいと願い主体的に活動する姿が見えてきた。地域の皆さんから地域学習への温かいご支援・ご協力をいただいたことで児童生徒の豊かな学びが成立した。
- 地域の方が温かく児童生徒を見守り、学習支援などにかかわってくださることで、地域から愛情を受け、支えていただいていると感じ、児童生徒は地域への愛着、地域のみなさんへの感謝の思いが生まれ、お互いを大事にしながら生活していく心情、実践意欲が育まれている。

【課題】

- 1~9年生が交流し学び合う義務教育学校のよさを生かし、地域の皆さんとの交流や協働活動を発展させ、学校も地域も元気になる学校づくりを進めていく。
- 地域へ愛着をもち地域の方への感謝の思いを持っている児童生徒が地域へ働きかける地域貢献や地域づくりへの参画についてさらに考えていきたい。

異年齢が交流し、学び合う学校



運動会でのペア競技



文化祭での交流活動

檜川から未来へはばたく ～輝く夢を携えて、気魄に燃えて～

木曾檜川小学校コミュニティ・スクール

＜地域と学校で協働して育てていきたい子どもの姿＞

～自ら学び、考え、思いやりを持って行動できる檜川っ子～

○温かい人間関係を築くことができる子ども

○心身共にたくましく、自立し、未来を拓く子ども

○ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着を持ち、地域の未来を拓き、語る子ども

感じる 切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心 ～地域を知る～



＜しめ縄づくり体験学習＞



＜地域コンサート＞



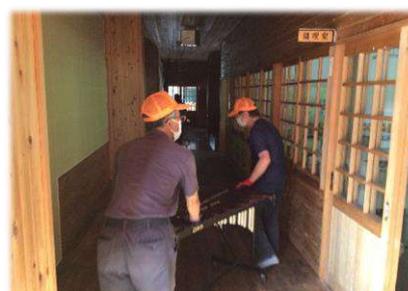
＜お話の時間プレミア＞



＜クロカコース作り＞



＜学習支援「木彫指導」＞



＜義務教育学校引越しボランティア＞

考える 自ら問いを持ち、主体的に探究する力 ～地域と協働する～



＜ちくたんけん：1年＞



＜なら川をしろう：2年＞



＜町たんけん：3年＞



〈工芸士の漆塗体験学習：3～6年〉



〈羽淵キウリ栽培：4年〉



〈保育園交流：5年〉

語り合う 協働し、未来の自分を想像しようとする力 ～地域と協働する～

〈木曾漆器の魅力を発信〉



〈ならにこ漆器会社：6年〉



〈来校者への摺り箸販売：6年〉



〈木曾漆器のパンフレット：4年〉



〈桜沢トンネル式典参加〉



〈ひまわりの種配布：5年〉



〈宅配弁当包み紙：3年〉

〈成果と課題〉

- コロナ禍の中でも学校長の願いの通り感染対策に努め、学びを止めることなく実施することができた。
- 「ふるさと漆器学習」は昭和52年から脈々と受け継がれる木曾漆器の魅力を学び・発信する特色のある教育活動である。3年生から毎年実施することで、伝統文化、産業を誇りに思い、愛着をもつ子どもが多く見られる。また本年度の6年生は子ども会社「ならにこ漆器会社」を立ち上げて活動するという新たな挑戦をして、その活躍ぶりが関係者の目に留まり桜沢トンネル開通の来賓用記念品として子どもたちの摺り箸を取り上げていただいた。子どもたちは地域の方々との交流や様々な活動を行うことを通し、大事にされている自分たちであることを自覚して、自己肯定感を高めている。
- 地域の現状や課題に目を向け、自分たちにできることはないか考えることから、地域貢献につながる主体的な取り組みや活動が展開されてきている。
- 学校支援ボランティアの方々からは「学校に来ることが楽しみ。子どもとの関わりがやりがいになっている」との声が寄せられている。



< 小中学校児童生徒会交流 はじめの会 >



< グループ集まれ >



<自己紹介>



<仲良くなろうレクリエーション>



<臨時児童生徒会 グループでの話し合い「こんな活動ができそうだね」>



8月4日(水)登校日。義務教育学校開校に向けて現1年生から中学校3年生が小学校体育館に集まり、初めての交流会と児童生徒総会を行いました。交流会は小中学校の現児童会、現生徒会が企画運営(この日のために事前に入念に打合せをしました)。それぞれ考えたレクリエーションを通して、お互いの顔や名前を覚えながら、交流会を楽しみました。子どもたちの笑い声が体育館に響き、それぞれを思うやさしい気持ちがあふれていました。交流会の後、1~3年生はプール学習、4年生以上は児童生徒総会の規約やグループでの話し合い(義務教育学校になることでできそうな学習や行事や児童生徒会活動)を時間いっぱいしました。生徒会の準備運営が素晴らしく、またどの子どもがこの日のために意見や考えを持って臨んでいたおかげで、生き生きとした話し合い活動を行うことができました。大きな一歩を踏み出すことができました。

「義務教育学校開校への準備と楡川中学校最後のまとめ～地域とともに～」

塩尻市立楡川中学校

【これまでの経緯】

平成30年度 生徒の希望をもとにした地域講師による講座型ふるさと学習、「ならかわ大学」が本格的にスタート
 令和 元年度 地域講師による講座型ふるさと学習と学年総合を併用したふるさと学習「ならかわ大学」へ
 令和 2年度 ICT等も活用した学年総合を軸にしたふるさと学習「ならかわ大学」へ
 令和 3年度 ICT等も活用した学年総合を軸に学年・グループ課題を明確にしたふるさと学習「ならかわ大学」へ

小学校・中学校共通の学校運営協議会、地域教育協議会、CS懇談会、義務教育学校開校委員会における熟議を踏まえた実践



学校運営協議会



地域教育協議会

令和4年開校の義務教育学校を見据えた地域の方々との協働による取組み

願う子どもの姿・伸ばしたい力

楡川から未来にはばたく

《楡川の学びを支える3つのK》

感じる

考える

語り合う

【楡川で伸ばしたい資質・能力】

「夢を志し、リーダーとしての資質・能力」

- ①豊かな感性：切磋琢磨し多様性を包み込む豊かな心
- ②探究力：自ら問いをもち対話的に探究する力
- ③想像力：協働し、未来の地域を創造しようとする力

【ならかわ大学 共通の問い】

楡川地区の活性化のために何ができるだろうか。

【生徒会の願い・テーマ】

(願 い) 小学校と、地域と、協力の輪を結びたい
 (テーマ) 「結び～輪になって、未来につながる最高の締めくくりを飾ろう～」

「ならかわ大学」発足式（コロナ対策のためオンラインで実施）

楡川地区の問題を共有し、個人・グループ・学級の課題を明確にして1年間の学習を進めていくことを確認します。ならかわ大学学長の学校支援コーディネーターの重先生からは「青い鳥」の童話から「大事なものは身近にあります。」というお話をしていただきました。



楡川地区コミュニティ・スクールの取組例 ～地域とともにある学校～



《環境整備支援》

グラウンド整備、PTA 親子作業での草刈り、小学校への引越作業など



《教育活動支援》

消毒ボランティア、手縫い雑巾の寄贈、あいさつ運動など



《コミスクフェスタ開催》

地域住民の方、保護者へ地域学習の成果を発表した。

《学びを支える 3つのK 取組の具体》

「感じる」 切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心



1・2年「楢川探検」
昨年度に楢川を学んだ2年生が1年生へ楢川3地区をガイドするなかで、地域の方や地域の歴史・文化にふれる。(3日に分けて実施)



全校「SOSの出し方講演会」
県スクールカウンセラー山崎寿子先生をお招きして、自分理解や人との関わり方、困った時の対処法などを学んだ。



全校「人権講演会」
県ヘルプマークディレクター猪又竜さん 井出今日我さん(リモート)をお招きして、多様性の尊重など学びを深めた。

「考える」 自ら問いをもち、主体的に探究する力



1年生「楢川を知ろう」
楢川の特産を調べたり、楢川の昔話・伝承を調べたり、名所を写真に撮って絵葉書にしたりすることを通して、より楢川を知った。



2年生「川入地区調査」「楢川PR」
住民の方への聞き取り等により川入地区調査をした。また、楢川紹介パンフレットやふるさとCMづく等によりPR活動を行った。



3年生「交流活動・楢川発信」
グループごと「道草を食おうの日」「楢川紹介」「空き家問題」をテーマに企画・実践を重ね、交流・発信する活動を行った。

「語り合う」 協働し、未来の自分を創造しようとする力



1・2年「中山道キャリア研修」
1日目：下諏訪町御田町での見学・交流を「なら大」の学びへつなげた。2日目：エプソン広丘事業所を見学し、職業観を深めた。



3年生「袋井南中との交流」
楢川へ修学旅行に来る袋井南中3年生へ楢川地区を紹介したり交流をしたりした。(感染対策としてZoomにより実施)



全校「夢いきいき講演会」
信濃教育会会長 武田育夫先生をお招きして、中学生の質問に答えていただく意見交流の中でこれからの生き方を見つめた。

《楢川小中学校開校に向けた取組の具体》

児童生徒交流

小学生とのレクリエーションや来年度の児童生徒会や行事で行いたいことなどを話し合った。



児童生徒会長選挙

選挙活動では、小学校と中学校で教室訪問を行った。立会演説会後に、選挙を行った。



引越作業

引越作業など、生徒・職員・保護者・地域・行政関係者・業者と多くの協力をいただいた。



新校章デザイン作成

3年生がデザイン作成を担当し児童生徒・地域住民による投票を行い右の新校章デザインに決定した。



デザイン	込めた意味
楢の葉	三つの地区(鶯川・木曾平沢・奈良井)、未来へ羽ばたく翼のような葉
楢の実(どんぐり)	三つの学校(鶯川小学校・楢川小学校・楢川中学校)、3K(感じる・考える・語り合う)
漆の色のリボン	未来へつなぐリボン 地域や全校のつながり

教職員による学校運営計画の作成

各教科・領域の9か年カリキュラム及び学校運営計画を小中合同職員会議及び打合せ会で作成した。



【楢川中学校最後のまとめ～地域とともに～】

「中学校最後の総合発表会」
地域の方から写真を募集し
モザイクアートを作成



「地域の方への感謝のお礼状」
地域の方へ感謝の気持ちを
メッセージにして地域回覧



「最後の開校準備委員会」
開校に向けて地域・保護者・行政・学校が熟議



成果

- ・「ならかわ大学」において、全学年共通の課題として「楢川地区の活性化のために何ができるだろうか。」を設定したことで、「自分が」「自分たちが」できることを見つけようと、当事者意識をもち主体的に動き出す生徒の姿が見られた。
- ・「ならかわ大学」の学習や地域の方から学校支援をいただくことで、地域の魅力や、地域の方々の熱意・優しさにふれ、地域への愛着が深まったり、自分の生き方を見つめたりして、つけたい力の醸成やキャリア教育につながる生徒の育ちがみられた。
- ・「楢川中学校」最後の1年としての自覚をもち、コロナ禍であっても工夫して仲間同士・小学生・地域の方とのつながりを大事にしようと粘り強く取り組む姿があった。

来年度に向けて

- ・義務教育学校開校に向けて、9か年の育ちを見据え、学校運営協議会、地域教育協議会と連携・協働し、学校・家庭・地域で共に児童生徒を育む「協働」活動について、熟議を引き続き行っていきたい。その中のひとつとして、児童生徒が地域づくりに参画し、主体的に地域にかかわる場面などを構想し、「楢川から未来へはばたく」児童生徒を育むために「地域とともにある学校」のさらなる充実を目指したい。

ならチャレ 2020!! 木曽檜川小学校コミュニティ・スクール
 ～ 輝く夢を携えて ～



夏休みに塩尻市生活環境課の支援のもと、学校横を流れる母沢で石の裏や水草の影などに住む生物を採集・観察を行いました。生物の多様性や水をきれいにすることの大切さを身近な川で遊ぶ楽しさを学びました。

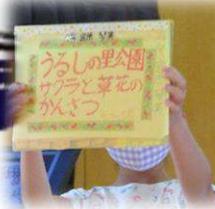
ならチャレ 2020!!



画面を消して!!
 この2週間を使って
 できることに
 チャレンジしてみましょう



わたし _____ は
 _____ に
 チャレンジします!!



コロナ禍でも明るく元気よく生活できるよう、何か一つのことに夢中になってチャレンジする心を全校で学んでいます。

～コロナ禍の中、今まで以上に大勢の地域の方々の知恵や愛情を受けて～

<学習環境の整備>



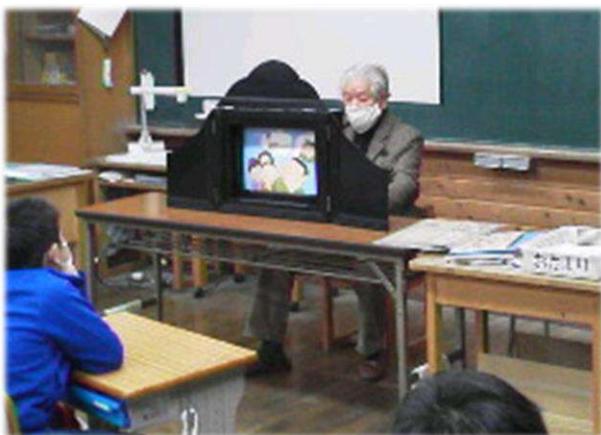
5月。臨時休校明けに子どもたちがすぐに田んぼの学習ができるように地域指導者の方が諸準備をすすめてくださいました。また学校支援ボランティアの方々が定期的にグラウンド整備をすすめてくださいました。

<新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応>



本校は給食時に漆のお盆を利用しています。お盆の消毒で困っていると地域ボランティアの方々が子どもたちに手作りナフキンを心をこめて作ってくださいました。また校舎の消毒作業の願いを地区回覧を通してよびかけたところ、総勢25名の方々が37日間支援をしてくださいました。

<通常の学校生活を取り戻し・・・>



学校生活がもどる中、休止していた読書ボランティアを再開したり、音楽会の中でマリimba奏者関澤真由美さんのミニコンサートを開いたりすることができました。子どもたちも大喜びでした。

～地域に学び、地域を知り、誇りと愛着を持ち～

〈通常の学校生活を取り戻して〉



〈地域探検誓川：1、2年合同〉



〈社会科地域探検：3年〉



〈羽淵キウリ栽培：4年〉



〈木曾漆器伝統工芸士の漆塗体験学習：3～5年〉



〈保育園交流：5年〉

新型コロナウイルス感染防止の対策をしながら、外部講師や交流相手と連絡をとりあい、各学年の特色ある教育活動を展開することができました。臨時休業明けはうつむき加減だった子どもたちが次第にもとの明るさを取り戻し、自分の課題に向かって仲間と楽しく追究する姿がみられてきました。



本年度は6月の漆器祭が開催できずに、6年生の子どものお店を開くことができませんでした。そこで、木曽漆器の素晴らしさや木曽漆器伝統工芸士の方々とのお話を多くの方々に知ってもらおうと、10月には銀座 NAGANO 様やえんぱーくで作品を展示していただき、好評を博しました。

11月の参観授業後に体育館で、6年生が「子どもの店」のために制作した漆器商品の受け渡しの販売がありました。大勢の方々が買いにきてくださり、子どもたちはとてもうれしそうでした。

事前に予約していただいたお礼のメッセージを添えて、お箸を一膳プレゼントしました。木曽漆器工芸士の方々に教えていただきながら心をこめて作った商品をようやく手渡すことができ、感謝の気持ちでいっぱいの子どもたちでした。

<成果と課題>

- 本年度は新型コロナウイルスへの対応として、「子どもの店」「ならニコカフェ」など本校の特色ある教育活動や運動会・音楽会など諸行事を精選・縮小をしたり、中止にしたりしてきたが、その中でも子どもたちが明るく元気に遊べるよう「ならチャレ 2020」や「ならゼミ 2020」を行い、難しいことにチャレンジする意欲を育ててきた。
- 学校で困っていることをPTA や学校運営協議会・学校支援コーディネーター等を通して、積極的に地域に発信したことで大勢の方々に参加していただくことができた。地域ボランティアの方々の学校を積極的に支援しようという機運が高まってきている。それだけに地域のボランティアの方々に任せきりになるのではなく、職員や保護者がボランティアの方々と協働していく意識を高めたり、感謝の気持ちをより伝えていったりすることが大事である。
- 保護者から「先生方がいろいろアイデアを出してくださり、子どもたちにとって意欲がわく活動を考えてくださっていること、ありがたく思います。今年はコロナ禍という状況の中でしたが、そこで何もなしとするのではなく、できることを見つけ出し、学校生活が楽しいと思える日々を作っていたいただきありがたかったです」と意見を寄せていただいた。

「コロナ禍でも地域と連携したふるさとの学びは止まらない！」

～塩尻市立榎川中学校～

【これまでの経緯】

平成30年度 生徒の希望をもとにした地域講師による講座型ふるさと学習、「ならかわ大学」が本格的にスタート
令和 元年度 地域講師による講座型ふるさと学習と学年総合を併用したふるさと学習「ならかわ大学」へ
令和 2年度 ICT等も活用した学年総合を軸にしたふるさと学習「ならかわ大学」へ

義務教育学校開校に向けて保小中との連携を深める。

学校運営協議会や地域教育協議会のほかに義務教育学校開校準備委員会で熟議を踏まえた実践

令和4年度開校の義務教育学校を見据えた地域の方々との協働による取組み

願う子どもの姿・伸ばしたい力

榎川から未来にはばたく

【 榎川の学びを支える3つのK 】

感じる

考える

語り合う

榎川で伸ばしたい資質・能力

「夢を志し、リーダーとしての資質・能力」

- ①豊かな感性：切磋琢磨し多様性を包み込む豊かな心
- ②探究力：自ら問いをもち対話的に探究する力
- ③想像力：協働し、未来の地域を創造しようとする力

【 全校生徒 共通の問い 】

榎川地区の活性化のために何ができるだろうか。

【 全校生徒 共通の想い 】

コロナ禍でも学びは止めない。地域の方とともにいまできることを行おう。

「感じる」

切磋琢磨し、多様性を包み込む豊かな心



1年 ZOOM学活



2年 廃村地区の話を聞く会



全校 性教育キャラバン



全校 榎川中学校笑顔を守る宣言



3年 スポーツデイ準備



全校 赤い羽根募金

「考える」

自ら問いをもち、対話的に探究する力



1年 留学生とのレク



3年 修学旅行代替花火



生徒会 三役校長サミット



1, 2年 地域探検



全校 総合発表会 太鼓演舞



2年 取材した記者の話を聞く

「語り合う」

協働し、未来の地域を創造しようとする力



2年 職場体験代替、職場調査



全校 ホラソレイの方と創る読書旬間



全校 夢いきいき講演会 武田先生と



全校 消毒除菌ボランティアの方々へのお礼状



3年 榎川紹介動画制作



1年 観光客おもてなし打合せ

成果

- ・ 地域の方の考え方や生き方に触れ、地域の良さに浸り、多角的な立場からあたたかな視点で考える力が伸びてきました。
- ・ コロナ禍であっても地域の方々や他団体の方々の力を借りながら、学びを止めることなく自分たちができることを精一杯行うことで自信を深めました。
- ・ 多様な方々の考えや生き方に触れ、今の自分を振り返り自己肯定感を高め地域への想いを深めながら、自分の将来へのビジョンを明確にすることができました。

新しい学校づくり 「檜川地区小中合同研修 伏木久始先生講演」



< 伏木先生講演 R2.10.14 >



< 伏木先生講演 R2.10.14 >



< 信州大学院生チャレンジ学習参観 R2.12.10 >



< 信州大学院生ふるさと学習参観 R2.12.10 >



< 木曾漆器伝統工芸士と信州大学院生との懇談 R2.12.10 >



< 伏木先生講演 R2.12.10 >

令和4年度義務教育学校開校に向けて信州大学学術研究院教育系教授伏木久始先生をお招きし、小学生と中学生の教科学習や総合的な学習の時間等授業参観を通して小中合同研修を行い、学びを深めています。

講演の中で、一人学習の時間を大切にする事、ふるさと学習では地域を足場とした学習を展開し工芸士の方々の思いやこだわりなど本物に触れる中で子どもたちの探究心が生まれてくること、そして、個に即した学びを記録する振り返りシートが有効であることや、ふるさと学習でつけたい力を明らかにして「こんな力がつくれた」「こんなふうに探究したねと言える子どもを育てる」ことを教えていただきました。

また今年度4年生で取り組んだ自由進度学習について、成功させている学校の具体例について教えていただくことができ、小中学校職員が自由進度学習への確かなイメージを膨らませることができました。

来年度も引き続きご指導をお願いし、小中学校職員の連携をよりいっそう進めていきます。

地域のために、自分たちができること ～ 地域貢献活動 ～

木曽檜川小学校コミュニティ・スクール

<地域と学校で協働して育てていきたい子どもの姿>

～自ら学び、考え、思いやりを持って行動できる檜川っ子～

○温かい人間関係を築くことができる子ども

○心身共にたくましく、自立し、未来を拓く子ども

○ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着を持ち、地域の未来を拓き、語れる子ども

1 つながり ～大勢の地域の方々の知恵や愛情を受けて～



<しめ縄づくり体験学習>



<米作り体験学習>



<読書ボランティア>



<クラブ活動>



<学習支援>



<運動会グラウンド整備>

2 広まり ～地域に学び、地域を知り、誇りと愛着を持ち、～



<ほう葉まきづくり：1年>



<地域探検：2年>



<ふるさと学習：3年>



＜工芸士の漆塗体験学習3～6年＞



＜羽淵キウリ栽培：4年＞



＜保育園交流：5年＞

3 深まり ～地域のために、自分たちができることを～ 地域貢献活動

＜漆器祭への貢献＞



＜子どもの店：6年生＞



＜山の中のならニコカフェ：4年生＞



＜交通安全レター作戦：5年生＞



＜灯明祭りへの参加：全校＞



＜地域コンサート：全校＞



＜移住を呼びかけるチラシ：6年生＞

＜成果と課題＞

- 地域の方々との交流や様々な活動を行うことを通し、大事にされている自分たちであることを自覚して、自己肯定感を高めている子どもたちが多い。
- 地域の伝統産業の体験活動（漆塗りなど）を3年生から毎年実施するおかげで、伝統文化、産業を誇りに思い、愛着をもつ子が多く見られる。
- 地域の現状や課題に目を向け、自分たちにできることはないか考え、地域貢献につながる主体的な取り組みや活動が展開されてきている。
- ボランティアの方々からは「子どもとの関わりが、やりがいになっている。」との声が寄せられている。ボランティア活動に参加して下さる方が例年より増した。
 - ・学校を積極的に支援しようという機運が高まり、それに応じて地域に貢献していこうと考え、活動する子どもたち。
 - ・子ども、職員、地域の方が共に手を取り合い、学校づくりに携われるよう、更に広報活動や連携を進めていきたい。

「ふるさとのために、自分たちに何ができるか」

地域との協働によって学校と地域が元気になる学校づくり

檜川地区コミュニティ・スクール 塩尻市立檜川中学校 ～

【三つの柱】

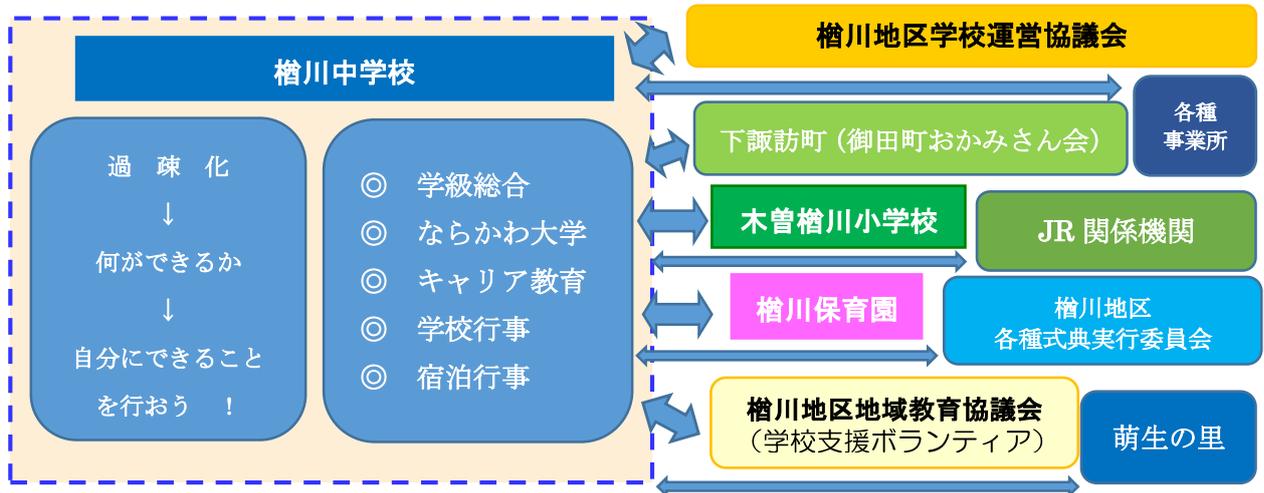
- 〔つながり〕 より多くの人や広い世界とつながる
- 〔広まり〕 共に考え合い・実践と発信を積み重ねる
- 〔深まり〕 多くの方と協働し自分にできることを行う

檜川地区の保育園、小学校、中学校がめざす共通の子ども像を目指して12年間を見通した保・小・中の連携教育、9年間を見通した義務教育学校の推進。

【問い】 ふるさと檜川のために自分はどんなことができるのだろうか。

コンセプト

連携・協働



つながり

地域の方と共に 地域の一員として 支えられる側から支える側へ



小学校の運動会のお手伝い



萌生の里交流



校舎周辺整備・全校作業支援



コミスク festa in 檜川



下諏訪町(御田町おかみさん会)との交流(1・2年キャリア学習)



保育園にて保育実習・保育園児との交流(2年生)



アイスクャンドル祭りへの協力。モニュメント製作をして祭典の盛り上げ。



キャリア教育 塩尻市街地での職場体験学習。自分たちで連絡・調整!

広 ま り

地域に学び、地域を知り、できることを学年で行う ！

1 年 生



贄川探検学習



漆器祭宿場祭でのPR活動

2 年 生



宿場観光ガイド



川入地区現地調査

3 年 生



農園復活 羽淵キュウリ栽培



奈良井宿で、カフェ「ならら」

深 ま り

地域に貢献！ 全校で挑む「ならかわ大学」、「全校総合」！！



夢いきいき講演会



ならかわ大学 集中講座



ならかわ大学 観光ガイド



皇女和宮御下向祭りでPR活動



電車でのアテンダント



駅でのお迎え

成 果

- ・ ふるさとの現状をしっかり直視し、さらに深く知り、今の自分たちにできることを、地域のニーズに応じて多くの人や団体と連携して行うことができました。
- ・ 様々な体験活動を通して、より広い世界や多様な価値観を知ろうと努め、聞き手の立場にたって思いや情報を発信する生きる力が育ってきました。

令和4年度義務教育学校開校へ向けた取組

1 開校準備委員会

10月 8日(火) 第1回事務局会議

10月24日(木) 第1回「義務教育学校開校準備委員会」

- ・委員会メンバーの確認 ・開校準備委員会で行うことの確認 ・PTA 組織の統合計画
- ・令和2年度実施木曾榎川小・榎川中学校小中一貫教育の1学期の取組について

11月11日(月) 第2回事務局会議

12月12日(木) 第3回学校運営協議会で経過報告

2 教育委員会と委員による視察

- ① 市川市立塩浜学園 6/21 ② 信濃町立信濃小中学校 10/31 ③ 新潟県十日町市立まつのやま学園 11/15

開校準備委員会&学校運営協議会



〈第1回開校準備委員会〉



〈学校運営協議会での報告〉

「贅川小と榎川小が合併したときも、かなり苦労して開校した経緯がある。今度の義務教育学校が子どもにとってワクワク楽しい気持ちになるような学校にしていきたい」

新しい学校づくり 一貫校勉強会 第1弾 小松郁夫先生をお迎えして



12月19日(木) 午後7時から標記勉強会「新しい『地域とともにある義務教育学校』を考える」があり、京都大学特任教授小松郁夫先生をお迎えして80人を超える参加者がありました。小松先生は、「学校がなくなると、その地域はさみしくなる。よい学校はその地域の資産である」「義務教育は地域全体の役割であって、これからの社会についていける子をどう育てられるかが大事であり、それぞれの地域で生まれた子が15歳になるまで一貫した教育が必要である」「多様な経験を積んだ多くの方が学校に関わることである」「小中9年間を通した魅力あるカリキュラムが必要である」等の大切さをお話してくださいました。

義務教育学校開校（2022〈令和4〉年）までの大まかな道筋

事務局（塩尻市教育委員会）

■2019〈令和元〉年・本年

- (1) 開校準備委員会の設置（10月）
 - *委員会を準備するための事務局も設置（榑川地区・小中学校・市教委）
- (2) 次年（2020〈令和2〉年）度実施する「（施設分離型）小中一貫教育」に関わる中身や地域として行うことの検討
- (3) 義務教育学校に関わる施設〈建屋・予算等〉や核となる部分〈校名等〉の検討
- (4) 「義務教育学校設置」について住民や児童生徒への周知活動



■2020〈令和2〉年

- (1) （施設分離型）一貫教育のスタート：運営の評価（義務教育学校設置に向けて）
- (2) 2022〈令和4〉年度・（施設一体型）義務教育学校実施に向けた「学校運営・経営計画（案）」の検討や施設一体型校舎への改修工事計画〈設計〉について
- (3) 義務教育学校開校に向けた核となる部分（学校経営の核・コンセプト）の検討
 - *次年（2021〈令和3〉年）度に配布・説明・営業用のパンフレット作成



■2021〈令和3〉年

- (1) 次年度に控えた義務教育学校開設準備：（施設一体型義務教育学校開校に向けた）学校経営・運営計画の策定
- (2) 学校説明会の開催〈パンフレット配布〉
 - ①榑川地区内
 - ②塩尻市内（区域外通学児童生徒の呼び込み）
 - ③塩尻市周辺（木祖村・朝日村・山形村・松本市・安曇野市）
- (3) 施設一体化に向けた改修工事



■2022〈令和4〉年

- (1) （施設一体型）義務教育学校が開校
- (2) 開校記念式典
- (3) 開校準備委員会の解散
- (4) 新しいコミュニティ・スクール組織及びPTA組織でスタート



地域のために、自分たちができること ～ 地域貢献活動 ～

木曾榎川小学校コミュニティ・スクール

年間、延べ人数で約200名の学校支援ボランティアの皆さんが活動をしてきている木曾榎川小学校コミュニティ・スクール。支援を受けるだけでなく、自分たちも地域のためにできることを探して、実施した地域貢献活動を紹介します。

1 漆器祭・奈良井宿場祭での取組み ～子どもの店・ランチルームカフェ～

(1) 子どもの店

3～6年生が年間8時間、木曾平沢の伝統工芸である漆器塗りの体験学習をする「ふるさと学習」。学習の集大成として、6年生が「子どもの店」を出店して、自分たちが塗った漆器を販売します。



<完売目指しみんなで円陣！>



<開店と同時に長蛇の列>



<1人ひとり丁寧な接客で>

(2) ランチルームカフェ

漆器祭・奈良井宿場祭のちょうど中間地点として、学校の校庭が駐車場となり、大勢の方が利用しています。3kmほど離れている2つの会場を歩いて移動する方も多く見受けられるため、学校を開放して4年生が「ランチルーム・カフェ」を試行実施しました。



<お揃いのエプロンで来ていただいた方々と会話を楽しむ子どもたち>



<自分たちの作品で
ランチルームを飾り付け>



<お茶とミニ朴葉巻きを無料でお出ししました>

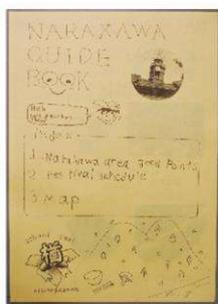
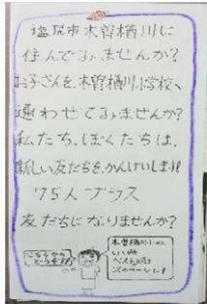
～お寄せいただいた感想～

- 子どもたちが一生懸命おもてなし下さって、とても和やかな気持ちになりました。そして、町を愛する心が感じられました。素敵な皆さんと出会えてよかったです。ありがとう。
- 熊谷市から来ました。駅からハイキングに参加している時に、声をかけられ立ち寄りました。皆さんとてもしっかり接待されていて、お茶と朴葉巻きをいただき、身も心も癒されました。ありがとうございました！

2 移住を呼びかけるチラシ配布活動 ～ 空き家対策 ～

昨年、檜川地区の空き家対策のために移住を呼びかけるチラシを作成し、配布活動をした5年生が、修正を加えたチラシを漆器祭・奈良井宿場祭でも配布活動をしました。

昨年チラシを見て移住を決めた方も、この夏に奈良井に居住しました。また、茨城県から5年生女子児童1名が体験入学に来てくれました。



<今年は英語のガイドマップも>

<移住を呼びかけながら手渡しで配布しました>

3 奈良井灯明まつりへの取組

奈良井宿で「第1回 奈良井宿灯明まつり」が2月22日（金）～24日（日）に開催されます。奈良井環境協会の協力のもと、図画工作の時間を使って、全校児童が1人灯籠1面ずつ飾る作品を製作しました。

各学年で、子どもたちの発達段階に応じた手法や材料を使い、趣向を凝らした作品ができあがりました。

灯明まつり当日、子どもたちの温かい作品が奈良井宿の町並みを灯します。

5・6年生は柳澤京子さんから切り絵指導を受けました



<貼り絵を使った1年生>



<切り絵で思い出を表現した5・6年生>



<落ち葉を使った2年生>



<カラーセロハンを使った3・4年生>



【成果・課題・来年度に向けて】

- 新たな貢献活動により、子どもたちは相手意識を持って、自分で考え活動する機会を得ることができ、自己有用感や肯定感を高めることができた。
- 学校が地域に貢献し、児童も地域住民もともに集うことができる地域コミュニティの拠点としての学校づくりとなった。
- ▲ 広報活動を活性化して、多くの人に活動を知ってもらい参加してもらおう。
- 今ある活動を大切に、本校のコミュニティ・スクールの柱として定着させていく。

地域との連携・協働によって「学校が元気に!」「地域が元気に!」なる学校づくり
 < 檜川地区コミュニティ・スクール ～塩尻市立檜川中学校～ >

「ならかわ大学2018」

檜川中学校コミュニティ・スクール

◇ 講座型ふるさと学習、「ならかわ大学」



1 基本方針

- (1) 全校縦割りで、講座別・テーマ別に、自分たちが考えた課題追究を目指す・深めていく
- (2) 名称を「ならかわ大学」とし、新たな発見や気づき、経験・体験等を深めていく。
- (3) 地域について、地域に出て、地域及び地域講師・地域の方から学び、知ったこと・わかったこと・深まったこと、身に着けたことを、自分たちの言葉で発信するとともに、様々な人と共有し、学んだことを地域に還元する。

2 key words

【 地域に学び、地域で学び、地域から学び ⇒ 地域に貢献する 】

3 各学部の実践

歴史学部

キャリア・伝統産業学部

観光グローバル学部

地域文化学部



檜川の歴史を学びました。鳥居峠での合戦現場を見てきました。



漆について調べ、漆器屋さんに行き、漆塗り体験をしました。



近年、檜川に多様な国から観光客が増加している



「食文化」班と「お祭り文化」班に分かれ調査研究しました。



ならかわ大学閉講式

一生懸命やっていて私も学ばせてもらいました。

できることがあれば、教えてください。協力しますよ。

【ならかわ大学の成果と課題】

- 講師の方々のおかげで、生徒が主体的に学び故郷の良さを実感した
- ▲ 地道な学習を積み重ね小中がより連携した学びを創造したい。
- 小学校6年生の希望も踏まえて学びを深めたい。

楡川中地域教育協議会 2018

楡川中学校コミュニティスクール

○ 地域の皆様に支えられ地域の皆様と共に学ぶ生徒

〈全校で取り組む短歌学習〉



オリジナル短歌づくりに全校で挑戦しました。

〈全校読み聞かせ〉



学級読み聞かせ、ビブリオバトルへつながりました。

〈3年さび土学習〉



漆塗りで使う「さび土」を復活させ、納品しました。

○ 地域を知り、地域に貢献し、地域から発信する生徒

〈1年キャリア学習〉



地元の職場で体験学習を行い、故郷の良さに気づきました。

〈3年ゆるキャラ挑戦〉



ご当地ゆるキャラ「なららちゃん」で観光客のお出迎え！

〈2年秘密基地〉



地元の方から名木を譲り受け自力で基地を作りました。

《 とっておきの話 》



〈木曾満喫号のお出迎え〉

6月の漆器祭宿場祭でお客様をお出迎えした「なららちゃん」ですが、好評を博して、次々と声がかかり、奈良井駅や木曾福島駅でもオリジナルソングとダンスとともに観光客のお出迎えをしました。



〈秘密基地完成祝賀会〉

2年生はお世話になった方々に招待状を書き、感謝祭に招待しました。地元でとれた食材を使い、自分たちで調理し、秘密基地でおもてなしをしました。参加された方々からは大好評でした。

【成果と課題】

- ボランティアの方による協力をいただき、生徒の意欲を喚起し、より主体的で深い学びができた。
- ▲ 楽しい企画をより充実させたい。
- 予算の見通し等、活動をより組織的で機能的に支援したい。

ふるさとを愛し、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとに貢献できる子どもを育む

＜ 塩尻市立木曾榑川小学校コミュニティ・スクール ＞

1 学校運営協議会の取組み

- (1) 第1回学校運営協議会 <4/14 (金) 19:00~>
〔小委員会 4/11 (火) 19:00~〕
 - ① 任命書交付 ② 学校経営方針、運営計画説明 (両校長)
 - ③ 承認 ④ 地域教育協議会の活動方針内容の説明 (地域教育協議会長)
 - (2) 第2回学校運営協議会 <7/14 (金) 19:00~>
〔小委員会 7/11 (火) 16:00~〕
 - ① 1学期学校運営報告 (両校長)
 - ② 熟議題「小・中一貫して地域と学校とで協議して育てたい子どもの姿」
 - (3) 第3回学校運営協議会 <12/14 (木) 19:00~>
〔小委員会 12/11 (月) 9:30~〕
 - ① これまでの学校経営・運営の成果と課題について (両校長)
- 3つの「きょう」の文字に合わせた木曾榑川小学校の取組みについて説明がありました。

「協」…

目標を明確にして協力し合う
→ 挨拶桜プロジェクト

廊下歩行
星空プロジェクト



「響」…

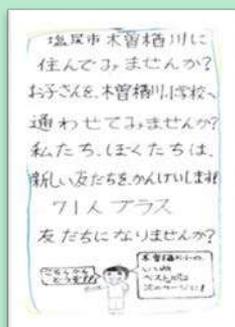
主体的に取り組む活動 → チャレンジドリル 学校美術館 図書館開放



「郷」…

地域貢献できる子どもたち・学校

- 4年 空き家対策
- 6年 漆器祭子どもの店



- ② 熟議題「地域と学校とで協議して育てたい子どもの姿」
 - (4) 第4回学校運営協議会 <2/14 (水) 14:00~> (予定)
〔小委員会 1/30 (火) 9:30~〕
- ☆ ボランティアお礼の会 (ランチルーム)

- ① 本年度の学校運営協議会の成果と課題について
- ② 来年度の学校経営方針案・運営計画案について（両校長）



＜榑川地区学校運営協議会会長 大矢 喜久男さん＞
 子どもたちの地域貢献につながる活動は素晴らしいです。
 これからもっと地域の皆さんの力を合わせて、子どもたちの活動を支援していくため
 に、ボランティア登録をしていきましょう。

【学校運営協議会の成果と課題】

- 本会の中で、グループワークをすることで、委員の皆さんや先生方と榑川地区で育てていく子どもたちの姿を共有し合うことができた。
- ▲ 学校の敷居を高く感じてしまう地域の方もいる。ボランティアルームの有効活用をしていき、より多くの先生方との交流の機会をとっていきたい。

2 地域教育協議会＜学校支援活動・地域貢献活動＞の取組み

(1) 第1回総会 ＜5/24(水) 19:00～＞

市教委 池上先生、中信教育事務所 三溝先生にも参加をしていただき、支援部ごと学校支援ボランティアの皆さんと小中担当の先生方が支援内容、体制、年間計画及び支援等の協議を行いました。



(2) 各支援部の主な活動



＜読み聞かせ活動と自主的な研修会＞



＜ふるさと学習（漆塗り体験）＞



＜施設環境支援 校庭整備＞



＜イワナの放流体験＞



＜地域の方による学習支援＞



＜榑川地区地域教育協議会会長 山口 和男さん＞
 自分も校庭整備に協力をしたが、運動会の時に一段ときれいに整備された校庭を駆け巡る子どもたちの姿を見て、うれしくなった。

【地域教育協議会の成果と課題】

- 読書活動支援部の読み聞かせ活動のように、各部に自主的に活動できる取組みを位置づけていく。
- ▲ 広報活動を活発にして、多くの人に活動を知ってもらい、参加してもらう。

地域との連携・協働によって「学校が元気に!」「地域が元気に!」なる学校づくり

< 檜川地区コミュニティ・スクール ～塩尻市立檜川中学校～ >

■学校運営協議会の取組み ～第3回檜川地区学校運営協議会～

1 学校長から学校運営の報告

- (1) 本年度の重点「一人立ち」と「知の高まり」に関わって、「卒業後に生きて働く力の育成」に向けた取組みの紹介
- (2) 全国学力・学習状況調査の結果および考察
- (3) 学校自己評価の結果および考察
- (4) 学校保健委員会「情報機器とのつきあい方」の取組と学校と家庭の連携のあり方



2 グループワーク

第2回の会議でまとめられた地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿「**温かい人間関係を築くことができる子どもの育成**」と「**心身ともにたくましく、自立し、未来を拓く子どもの育成**」に向けた具体的な方策をグループワークで考え、全体で熟議を行いました。

乳児の時から安心感が持てる子育てを…

お年寄りの方も触れ合える機会を増やして…

学校にコミュニティルームの設置を…



豊かな自然や人の温かさがあ
る地域性を生かして…

学校と地域が共に楽しむこと
ができる行事を企画して…



学校運営協議会会長
大矢 喜久男さん

かつてより学校と地域の連携が緊密であった檜川地区のよさを生かしながら、学校にとって必要と思われることは何でも相談してください。

《とっておきの話》

毎年実施している被災地から学ぶ東北訪問研修では、事前に地域料理の五平餅のつくり方を地域の方に教えていただき、訪問先である郡山市の応急仮設住宅の方と一緒に作って食べています。

【学校運営協議会の成果と課題】

- 熟議によって学校や地域が願う保育園・小学校・中学校の12年間で育てたい子どもの姿が共有された。さらに各校・園において具体的な取組を考えていく。
- ▲ 小学校、中学校の連携を一層深め、9年間を見通したカリキュラムの見直しを図り、地域との連携・協働によって、子どもが共に育つ教育活動を提案していきたい。

■地域教育協議会〈学校支援活動・地域貢献活動〉の取組み

○ 第1回地域教育協議会の内容

- 1 平成29年度学校運営方針の説明
- 2 各支援部会
 - (1) 支援内容の確認
 - (2) 学校支援の年間計画および支援等の協議



○ 支援部の活動

〈学習支援部〉



1年総合的な学習の時間
「朴葉巻をつくろう ～檜川0円食堂」

〈施設環境支援部〉



P T A親子環境整備作業
法面の草刈り作業

〈キャリア教育支援部〉



1年檜川地区職場体験
事業所の提供

○ 地域を知り、地域に貢献し、地域から発信する生徒



修学旅行先の京都駅で檜川PR活動



漆器祭・宿場祭でのアンケート活動



檜川地区のゴミ拾い活動



地域教育協議会会長
山口 和男 さん

環境整備作業できれいになった学校を見ると私たちもうれしくなります。檜川地区には、様々な人材がいるので必要なボランティアがあったら遠慮なく相談ください。

《とっておきの話》

2年生は、修学旅行先の京都駅でのPR活動に奈良井宿のマスコットキャラクター「なららちゃん」の着ぐるみを作成してPR活動を行う計画を立てています。

【地域教育協議会の成果と課題】

- ふるさと檜川を愛し、愛される子どもの育成に向けて、今までの学校支援に加え、学習支援など新たなボランティアの方による協力をいただくことができた。今後も支援をいただける学習活動を模索していく。
- ▲ 小学校に比べて、高台にあるためか、来校しにくいイメージがあるが、生徒やボランティアの方がともに楽しめるような活動場面を増やしていきたい。

をもつ子どもを育む ～ 塩尻市立木曾榑川小学校 ～

地域愛に根付いた健やかな成長と、保育園から中学校卒業までの一貫した教育のあり方を研究・協議し連携を深めることを目的としてスタート

【これまでの経緯】

- 平成25年度 榑川地区保小中地域連携協議会が発足
- 平成26年度 保小中、地域が連携した活動を推進していく
- 平成27年度 塩尻市榑川地区学校運営委員会として発展
- 平成28年度 コミュニティ・スクールとしての活動がスタート

学校と地域が連携して

- ・地域の方々と共に学ぶ学習、地域の方々に参加する行事
- ・保小中連携活動の推進と実践

地域の学校へ。
保 → 小 → 中の
スムーズな移行



地域の方による学習支援



読み聞かせボランティア活動



ふるさと学習（漆塗り体験）



運動会 地域の方々と共に



木曾漆器祭 子どもの店(販売活動)



草取りボランティアの方々



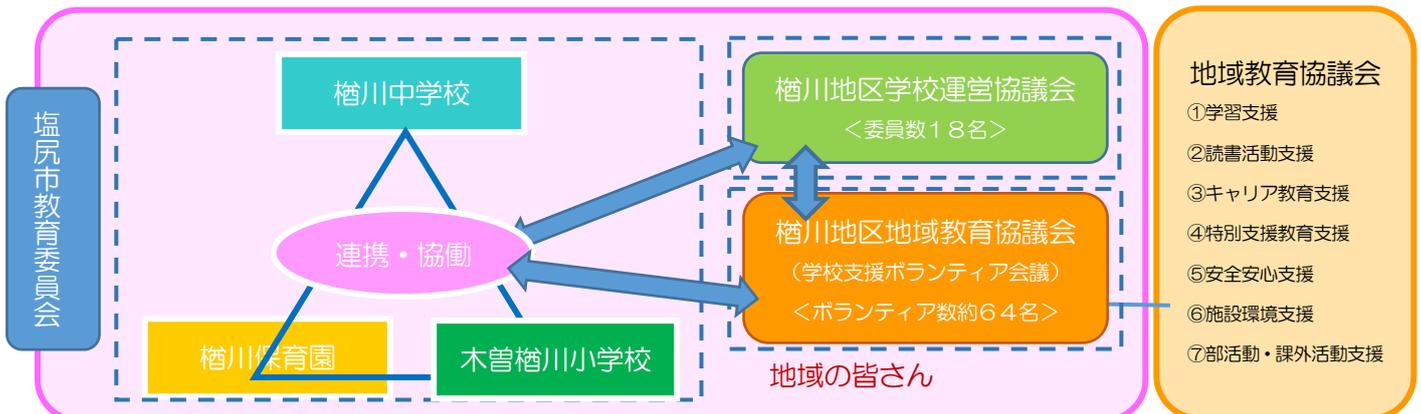
保育園児との泥んこ交流



6年生 榑川中での授業体験

学校運営協議会での熟議を通して目標を共有し、地域教育協議会と保小中が連携して取り組んでいます。

塩尻市榑川地区コミュニティ・スクールの仕組み



ふるさと学習の充実（1、2年「生活科」・3～6年「総合的な学習の時間」）

- ・ 檜川地区の人・地域・自然に関心をもち、体験活動を行うことを通して、郷土を愛し、郷土に貢献できる「檜川っ子」を育てます。
- ・ 自ら課題を見つけ、主体的創造的に取り組むことにより、自己有用感や自己肯定感を培い、自分の生き方について考える子の育成を図ります。

檜川地区の良さを見いだす学習

- 人・地域・自然と直接関わる体験活動
- 興味関心をもって、自ら課題設定する力
- 取り組んだことや調べたことを発表する力
- 漆器産業の抱えている課題を理解し、伝統工芸の将来について考えようとする態度

➡ 地域への誇り

自分の生き方について考える学習

- 人と自分との関わりを相手の立場で考える力
- 自分の生活を見返し、自然と共生していこうとする意識や態度
- 地域の歴史、文化遺産、伝統工芸やそれらを支えてきた人々の思いを継承しようとする意識

➡ 自己有用感や自己肯定感の醸成

1・2年生 「出会い、関わり合う」

- 檜川の自然
 - ・ 学校や学校周辺の探検
 - ・ 作物作り
 - ・ 奈良井川で遊ぼう
 - ・ ウサギの飼育
- 檜川の文化
 - ・ 昔の町並みを見よう
- ふるさと学習
 - ・ 漆器祭の見学
 - 檜川保育園との交流

- 身近な人々とふれあい、温かい気持ちで接する。
- 身近な文化・交通・産業等、自分たちが暮らす地域に興味・関心をもつ。
- 身近な自然に親しむ。



3・4年生 「よさを探求し、発信する」

- 檜川の自然
 - ・ 檜川の水を調べよう
 - ・ 奈良井川を大切にしよう
 - ・ 木曾の木と仲良くなる（鬻川の榎、木曾五木）
- 檜川の文化
 - ・ 鬻川や木曾平沢、奈良井の昔と今を学ぼう
 - 檜川の遺産
 - ・ 奈良井の宿場と水場
- ふるさと学習
 - ・ 漆塗り体験
 - 萌生（もえう）の里訪問

- 身近な高齢者、障害者、年少者について、自分との関係の大切さに気づき、温かい気持ちで交流する。
- 身近な自然、文化、交通、産業等地域にある事物や現象に興味・関心をもち、人々との関わりを通して、課題を解決していく。
- 身近な自然に親しみ、自然の大切さに気づく。
- 漆塗りを体験し、それらを継承している人々と交流することで、伝統産業等を支えている人々の思いや願いを知る。

5・6年生 「地域の一員として貢献する」

- 檜川の自然
 - ・ 清流と私たち
 - ・ 森林資源と私たち
 - ・ お米作り
 - 檜川の歴史
 - ・ 中山道
 - ・ 鬻川の関所
- 檜川の文化
 - ・ 山間地街道筋における非農業地域とその文化
 - 檜川の遺産
 - ・ 重要伝統的建造物群保存地区
- ふるさと学習
 - ・ 漆器祭子どもの店
 - ・ 漆塗りオルゴール製作
 - 檜川保育園との交流、檜川中学校での体験授業

- 身近な高齢者、障害者、年少者の状況を理解し、全ての人が生き生きと充実した生活を送るために自分ができることを考え進んで行く。
- 地域の自然、文化、交通、産業などとそこに暮らす人々との関わりを調べ、自分がどのように関わることができるかを考えていく。
- 自然に対する感受性や環境への関心を高め、自然を大切にしようとする。
- 漆器作りや販売など、地域の人々と共に活動することを通して漆器業の現状を知り、将来を考えていく。

地域への誇り

自己有用感や自己肯定感の醸成

成果

- 課題を設定し、それを自分たちの力で解決しようとする姿が育っています。
- 自分を大事にし、人を大事にする心や思いやり、慈しみの心が育まれています。
- 人・もの・自然に、自分から進んで関わろうとする力がついてきています。
- 自分たちが住むこの地に誇りをもち、大切にしていこうとする意識が高まっています。

地域との連携・協働によって「学校が元気に!」「地域が元気に!」なる学校づくり

～塩尻市立榎川中学校～

【これまでの経緯】

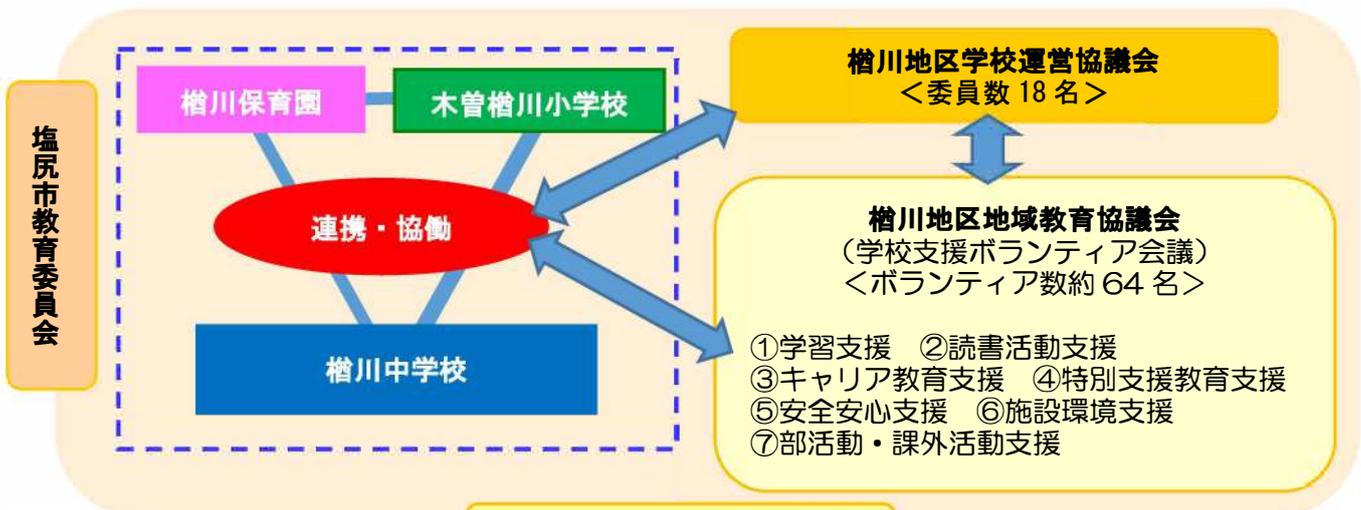
- 平成 24 年度 小中連携が本格的にスタート
- 平成 25 年度 榎川地区保小中地域連携協議会発足
- 平成 27 年度 塩尻市榎川地区学校運営委員会発足

榎川地区の保育園、小学校、中学校がめざす共通の子ども像「ふるさと榎川を愛し愛される子ども」「『自分の花』を咲かせることのできる子ども」の育成を目指して 12 年間を見通した保・小・中連携教育の研究を推進。

平成 28 年度 塩尻市榎川地区コミュニティ・スクールとしてスタート

学校運営協議会での熟議を通して目標を共有し、地域教育協議会と保小中が連携して取り組んでいます

塩尻市榎川地区コミュニティ・スクールの仕組み



地域の方からの支援



鳥居峠探検ガイド



学校登山支援



校庭整備・全校作業支援



部活動支援

地域の方と共に



Murasawa 杯 (校内駅伝大会) に地域の方・小学生チーム等も参加



小学校運動会の地域リレー種目に中学生チームが出場

地域の一員として



ボランティア登録をした生徒が自主的に高齢者宅等を除雪作業



生徒がアイスクャンドル祭りのモニュメント制作

地域学習の充実 「地域を知り地域から発信・より広い視野を持って物事を考える」

- ・ 檜川の自然、歴史、文化、産業、人々の生き方に触れて探求的、体験的、創造的にかかわることを通して檜川よさに気づき檜川を愛する子どもに育てます。
- ・ 自己肯定感、自己有用感を育み、一人ひとりが「自分の花」を咲かせることのできる子どもの育成を図ります。

1年生



鳥居峠探検



檜川地区職場体験学習



中学校入学説明会

2年生



中山道杉並木調査



塩尻地区職場体験学習



漆器祭・宿場祭PRパンフレットづくり

3年生



京都駅でのPR活動(パンフレット配布)



漆器祭でのボランティア活動



中山道巡り

学年合同



萌生(もえう)の里との全校交流



東日本大震災の被災地東北訪問(1・2年生)
ボランティア活動・仮設住宅の方との交流会



成果

- 地域の方の考え方や生き方に触れることを通して、ふるさとのよさに気づき、相手の立場に立ったコミュニケーションの取り方や態度が身につけてきています。
- 様々な体験活動を通して感じたことや考えたことを他の人に説明したり、発表したりする力が育ってきています。

《特別寄稿》コミュニティ・スクールの10年を振り返る



榑川小中学校 学校運営協議会長 小林 宏克

長男が9年生だった当時、「江戸ウィン」に陰から携わりました。奈良井宿で生徒たちが時代衣装を着て堂々と物怖じすることなく観光客相手にイベントを運営している姿を見て、キャリア教育を通じて地域愛を育む活動を垣間見ることができました。

これはほんの一例で、今ではいくつものキャリア教育やボランティア活動に地域の方々が携わり学校を活性化、そして地域も活性化という好循環が生まれています。本校は、義務教育学校として他地域から児童生徒を受け入れていますが、それでも少子化による児童生徒の減少を食い止める事が難しくなっています。我々の次のミッションは、観光業や漆器職人などを志す若い移住者を呼び込み持続可能な学校、地域にしていく事です。

榑川小中学校 地域教育協議会長 酒井 慶太郎



令和4年小中一貫とする義務教育学校（9年制）への転換は、学校また地域にとって大きな変化、中学校校舎は廃校となり小学校校舎に統合。小中一貫への転換は、メリットが多い印象。少人数ながら異年齢で学ぶ姿は、運動会、またその他の発表会等で地域の方々にも、その良い効果が分かりやすく伝わる。前後の異なる学年が同じ時間、同じ教室で授業を受ける連学年での学習は、音楽、体育などのジャンルではとても良い効果を発揮。一方、入試などにつながる主要科目は単学年での授業継続が望まれる。今後は、令和7年からの小規模特任教員制度を最大限活用し、域内で急激に進む少子化に対し、生徒数を維持することが課題。磨けば光る宝（自然、文化、伝統）、多く眠るこの地、明るい未来への可能性を信じます。



学校支援コーディネーター 重 勇雄

学校支援コーディネーターとして勤め始め一巡りした今年、新たなスタートを切った。

地域の顔でありベテランのTさんから引き継いで一年が経った時、自分の力不足を感じた私は、「務まるのか？」と感想を持った。前教育長さんが「…学校のこと分かるのが強み」と言っていたことと「できないところはそれなりに理由があり、できているところもそれなりに理由がある」と励ましてくれた、今は同僚の立場で勤めるIさんからの言葉が支えとなりこれまで務めてきた。そして何よりも、地域の方々のお姿が私の背中を押し続けている。地域とともにある学校・地域に支えられた学校（榑川とともにある・榑川に支えられた榑川小中学校）により子どもたちの笑顔が生まれてくる。その一助となれるよう、目の前の課題に取り組んでいこうと思っている。



たのめ
地域とともに 「憑の里」 で生きる
両小野学園コミュニティ・スクール

辰野町
小野保育園

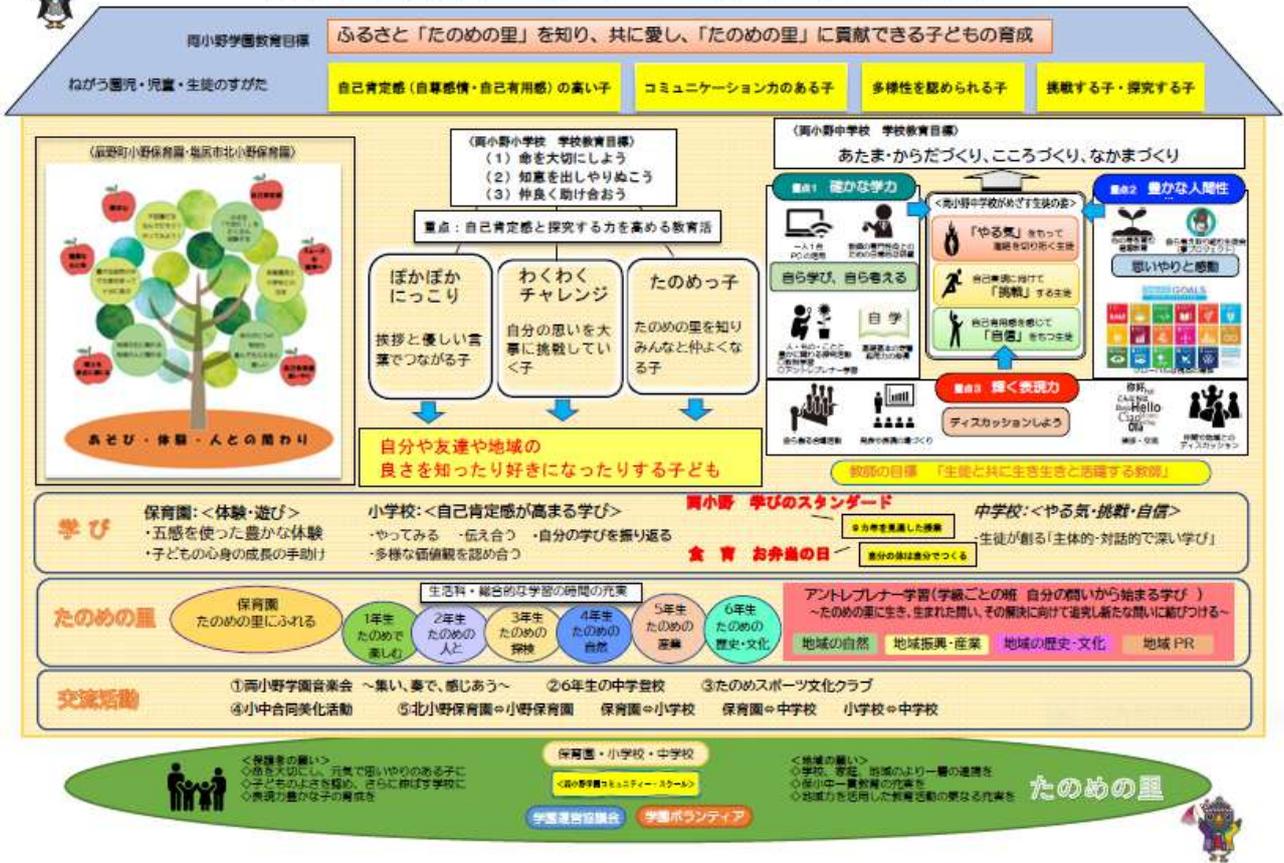
塩尻市
北小野保育園

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校

塩尻市辰野町中学校組合立
両小野中学校



令和7年度 両小野学園（保・小・中一貫教育）グランドデザイン



両小野学園運営協議会

地域委員会・学園支援委員会・評価委員会・広報委員会の4つの委員会で構成され、年に4回開催されています。

今年度は、第2回の両小野学園運営協議会で日赤長野県支部 防災教育アドバイザーの古村 幹夫様を講師にお迎えしての避難所設営ワークショップを行い、学園運営協議会の皆様と両小野小学校・両小野中学校の職員が協力してワークショップに取り組み、防災について思いを深めることが出来ました。また、今年度は、両小野学園あり方検討準備委員会を立ち上げ、人口減少に伴う両小野小学校・両小野中学校の今後の在り方を見出していくための土台作りを行いました。第3回の学園運営協議会で、両小野学園あり方検討委員会設置要綱が承認され、来年度からの本格始動のための準備が整いつつあります。



また、今年度は初めて保小中合同で引き渡し訓練が行われ、災害に備える意識を学園で共有することが出来ました。

北小野保育園・小野保育園

保育園同士の交流



〈合同遠足〉 荒神山スポーツ公園



〈どろんこ交流〉



〈音楽会に向けての制作交流〉

地域との交流



〈小野神社例大祭〉



〈きりとう訪問〉



〈JAの方と大根種まき・収穫〉



〈うとうくん訪問〉

地域ボランティアさんとの交流



苗植え



栗拾い



リコーダーコンサート



フラダンス



マジックショー



ギターコンサート



絵本の読み聞かせ



霧訪山登山



コカリナコンサート

小中学校との交流



〈1年生との太鼓交流〉



〈中学生と地域の方とジャガイモ掘り〉



〈両小野中学生との交流〉



世代間交流



〈両小野学園音楽会〉

両小野小学校

地域の「ひと、もの、こと」とつながろう



<ボランティアさんといっしょに>



<ボランティアさんによる
読み聞かせ>



<金管バンド:地域での演奏>



<1年生:きりとうさんとの交流>



<2年生:ボランティアさんと
大豆の種蒔き>



<3年生:地域の施設へ
花のプレゼント>



<4年生:親水公園で水遊び>



<5年生:ボランティアさんと
米作り>



<6年生:中学校登校で
部活動体験>



<お礼の会:日頃お世話になっているボランティアさんに感謝の気持ちをお伝えしました>

のため
「憑の里」両小野学園の中学校として

両小野中学校



昨年度から再開された両小野学園音楽会では、司会進行や会場の片づけを行い、何よりも歌声で中学生としての姿を示してくれました。



今年度から本格導入されたボランティア認定制度。地域のボランティアへの参加がとても活発になりました。2学期の終業式で、学園運営協議会会長より認定証が授与されました。



霧訪山の開山式では、生徒が手作りしたコースターや乾杯の飲み物を参加者の皆さんに手渡しました。地域の山に多くの方が訪れるようお願いを込めました。



両小野小学校の運動会にうとうくと一緒に参加しました。1年生は今までの後輩である小学生のみなさんに中学生になった姿を見てもらいました。



学区のもみじ山に、塩嶺カントリー様から寄贈していただいたもみじの苗木を地区の財産区の議員さんたちの手ほどきを受けて植えました。



古田 晁記念館のぶどうの袋掛けのボランティアでは、地域の方の手ほどきを受け一つ一つ丁寧に袋をかけました。地域の良さにまた一つ出会いました。



北小野地区の運動会のボランティアには多くの生徒が参加して、運営にあたっただけでなく、競技にも参加して運動会を盛りあげました。



1年生が地域の達人の手ほどきで注連縄づくりをしました。お正月飾りの意味も教えていただき、日本の文化の理解も深まりました。

<アントレプレナー学習> たのめ 憑の里の一員として、地域の課題に向き合う

昨年度までは縦割りのグループで活動してきましたが、今年度は各学年で、地域のために自分たちができることを考え、地域の方にご協力をいただきながら活動してきました。

11月には学園運営協議会委員や保護者、地域の皆様にお越しいただき、発表会を行いました。どの発表も内容が充実していて、自分たちが追究してきたことを発表する姿はとても堂々としていました。

1学年(地域のためにできること)

1学年では5つのグループに分かれて、地域の魅力発信や地域をより良くするための活動を行いました。地域の自然と歴史がテーマのカレンダーや、地域の建物の写真を使用したカードゲームといった、地域の方々に両小野の魅力を発信する活動。地域の観光地をテーマにしたCM作成や両小野地域外の人をターゲットにしたとう君キーホルダーの配布といった、地域外へのPR活動。地域の危険な場所を調べて注意を促す交通安全ポスター制作。それぞれが、「自分たちの住む両小野をもっと素敵な所にしたい」「もっとたくさんの人に知ってもらいたい」という思いをもって活動しました。活動を通して、地域のために自分たちができることを考え、積極的に学校外の方々と関わろうとする姿がありました。



2学年(両小野PR活動)

2学年では両小野地域を多くの人に知ってもらうために、地域の魅力を調べ、発信する活動を行いました。両小野の伝統行事や、おいしい野菜などを調べたり、地域の名所を調べたりして、観光客向けのマップ作りをしました。調べたことは、SNSやホームページで発信中です。

加えてパンフレットとしてまとめ、配布する予定です。

この活動を通して、普段何気なく過ごしている地域にも多くの魅力や価値があることに気づくことができました。また、調べ学習や話し合いを通して、地域の良さを改めて見つめなおし、自分たちの言葉で伝えようとする意識が高まりました。



3学年(地域の未来を考えよう)

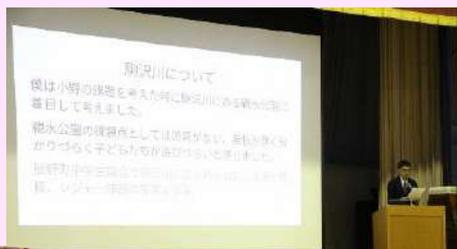
3学年では、地域の未来を考える「辰野町の中学生議会グループ」と「霧訪山について考えるグループ」、「土真ん中ウォーク実行委員会」の3グループに分かれて活動を行いました。辰野町中学生議会グループでは、地域の課題や解決策を考え、それを「ほたるの里中学生議会 2025」で発表しました。霧訪山について考えるグループでは、霧訪山をさらに良くするために何ができるかを考え、登山道に登山者用のベンチを製作、設置しました。土真ん中ウォーク実行委員会では、史跡説明やスタンプラリーの準備を行い、当日もスタッフとして土真ん中ウォークに関わりました。

どのグループにおいても、地域の未来を考えたり、貢献できることを考えたりしながら、活動を行いました。



アントレプレナー学習発表会

地域の方とたのめ憑の里のよりよい未来について意見を交換しました。



〈日本土真ん中ウォーク〉

今年度は日本土真ん中ウォークに全校で参加しました。3年生の土真ん中ウォークグループは運営に携るためにアントプレナー学習で5月から取り組んできました。1, 2年生はウォークに参加したり、うとうくんグッズ販売を行ったりしました。史跡案内をすることを通して地域の歴史を学び、実際にウォークに参加することを通して地域の豊かな自然を感じ、のための里への愛着を深めることが出来ました。



3年生の手作りマスコットを配布しました



3年生が史跡案内をしました



うとうくんのグッズ販売をしました



うとうくんグッズやマスコットを宣伝しました



それぞれ選んだ距離を歩きました
一番人気は 8km のコースでした

〈北小野地区文化祭（ショートブリリアント活動）〉

地域の方を講師にお迎えして参加希望の生徒を対象に行ってきたブリリアント活動ですが、今年度は、ショートブリリアント活動のみを行い、活動の成果を北小野地区の文化祭で発表しました。また、ボランティアで北小野地区の文化祭の運営に生徒が参加し、地域の一員としての意識を高めることが出来ました。



吹奏楽部の演奏



「ショートブリリアント 茶道講座」の
皆さんが先生のお手伝いをしました

「ショートブリリアント ダンス講座」
の皆さんの発表



進行やステージの準備や片付けを
行いました



「ショートブリリアント 写真講座」

成果と課題

- ・今年度は初めて、小野保育園・北小野保育園・両小野小学校・両小野中学校合同で引き渡し訓練が行われました。昨年度末に合同準備会を行い、5月に実施しました。学園で協力して災害に備えることが出来ました。課題に基づいた見直しを今後行っていきます。
- ・ボランティア認定制度を開始したことがきっかけとなり、生徒が地域で活躍する場面が増えました。地域のために活動することの良さと感じ、のための里への愛着が深まりました。

来年度改善点・方向

- ・昨年度まで夏休み中に行われてきたロングブリリアントを今年度は行わず、夏休みのボランティア活動への参加を促しました。今年度の振り返りを行うとともに、地教協と共通理解のもとで進められるよう連携を図っていきます。



たのめ
地域とともに 「憑の里」 で生きる
両小野学園コミュニティ・スクール

辰野町
小野保育園

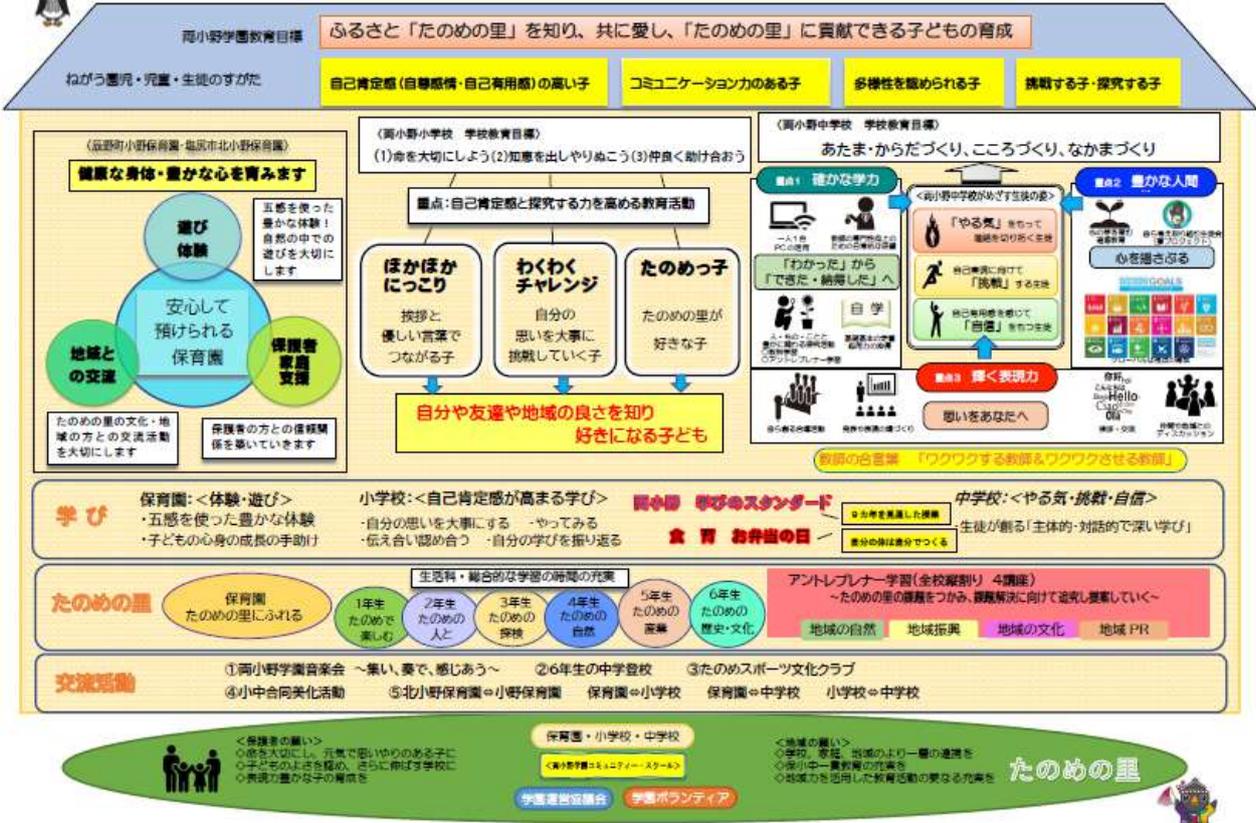
塩尻市
北小野保育園

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校

塩尻市辰野町中学校組合立
両小野中学校



令和6年度 両小野学園（保・小・中一貫教育）グランドデザイン



両小野学園運営協議会

地域委員会・学園支援委員会・評価委員会・広報委員会の4つの委員会で構成され、年に4回開催されています。

今年度は、両小野学園構想当初の両小野学園に対する願いを小中職員とともに共有し、今の時代に合った両小野学園が目指す姿をみんなで同じ基盤に立てて考えていきたいという願いのもと、第2回は、学園構想の発起人である岩下

隆弥様を講師に迎え、「両小野学園構想への願い」についてのご講演をいただきました。続いて、その内容を踏まえて各専門部で「令和の時代の両小野学園が目指す姿」について熟議しました。

これを通して、両小野学園に向けられた地域の皆様の切実な願いと憑(たのめ)の里の子どもたち・学校への熱い思いを、両小野学園に携わるものが理解し、目指していくものを共有することができました。



北小野保育園・小野保育園

保育園同士の交流



〈合同遠足〉小坂田公園にて



〈ハロウィン交流〉

地域との交流



〈郵便局訪問〉



〈きりとう訪問〉



〈世代間交流〉



〈地域の消防団と避難訓練〉



〈地域の方とじゃがいも掘り〉



〈JAの方と大根収穫〉



〈地域の方が育ててくれたさつまいも〉



〈例大祭〉



〈地域ボランティアとの交流〉



小中との交流



〈両小野学園美化活動〉



〈両園の年長児と1年生の交流〉



〈両小野学園音楽会〉

両小野小学校

地域の「ひと、もの、こと」とつながろう



<今年度も多くのボランティアさんに見守っていただきました>



<ボランティアさんと学校職員の打合せ会>



<1年生:保育園交流>



<2年生:地域の方とさつまいもパーティー>



<3年生:「明倫館」にて学級会開催>



<4年生:たのめの里水探し>



<5年生:わらを使って「おやす」作り>



<6年生:1年生と一緒にさつまいも植え>



<金管バンド:地域で演奏する機会をたくさんいただきました>



両小野中学校

たのめ 「憑の里」両小野学園の中学校として

今年度は、地域のイベントへ生徒のボランティア参加がとても積極的に行われたり、地域の方からのご提案で、防災訓練の際には地域の方にご参加いただいたりする等、地域との関わりがとても充実していました。また、7年ぶりに両保育園、両小野小学校とともに学園音楽会が開催され、学園としての一体感を感じることができました。



両小野学園音楽会での
全校合唱



小野酒造蔵開き「暁祭」での
吹奏楽部の演奏



両小野小学校運動会での
ボランティア



両小野小中合同の
地域美化活動



ふるさとの山での
もみじの苗木の植樹



お世話になっている地域の方を
お招きしての感謝給食会



地区の地図で地域の方と
危険箇所や避難場所の確認



たのめ市(地域のお祭り)での
ボランティア活動



地域の達人に学ぶ
注連縄(しめなわ)教室

<アントプレナー学習> ための 憑の里の一員として、地域の課題に向き合う

地域の自然(紅葉山)、地域文化・PR(キャラクター・情報発信)、地域振興(地域清掃・地域行事)の3グループに分かれ、地域のために自分たちができることを実践しています。

11月には学園運営協議会委員や保護者や地域の皆様にお越しいただき、発表会を行いました。全校生徒が4月からの活動内容を自分の言葉で丁寧に伝えようとしている姿がみられました。

地域の自然グループ

両小野地域にある紅葉山をより快適に観光を楽しんでもらうことを考え、環境整備の企画を考え取り組みました。紅葉山にゴミが落ちていたので、ゴミを捨てないように看板製作を計画しました。来た人がゴミを捨てないようにするためにはどんなイラストや言葉かけが良いか考え製作しました。この活動を通して、地域の環境について関心が高まり自分の力で自然をもっときれいになりたい気持ちをもつことができました。



地域文化・PRグループ

グッズ製作を行い、うとうくんのキーホルダーやカレンダーを製作しました。SNSを活用し、両小野地区を多くの人に知ってもらえるよう活動しました。



地域振興グループ

清掃グループとスタンプラリーグループに分かれて活動を行いました。清掃グループは、地域の空き家の清掃を行いました。スタンプラリーグループは、土真ん中ウォークでスタンプラリーや説明を行うための準備を行い、当日も活動を行いました。



アントプレナー学習発表会

地域の方と憑の里のよりよい未来について意見を交換しました。



〈日本土真ん中ウォーク〉

11月2日(土)に開催された日本土真ん中ウォークにアントレプレナー学習の地域振興グループの皆さんがスタンプラリーや名所案内で参加しました。当日は台風から変わった温帯低気圧の影響で朝から本格的な雨模様。そんな状況の中、堂々と名所案内をしたり、夏休み前から準備してきた手作りの葉やコースターなどをゴールした参加者に渡したりしました。地域の方や参加者の方に喜んでいただけて、土真ん中ウォーク事務局の方と相談を重ねながら地道に準備をしてきた成果が現れていました。



〈たのめブリリアント活動〉

ブリリアント活動は、生徒・地域の皆さん・学校がキラキラ輝くことを願いとしています。今年度、ロングブリリアントは両小野小の児童も参加して、夏休み中の半日を3講座(写真・アウトドア料理・川遊び)で開催しました。ショートブリリアントは、2学期水曜日放課後全5回を3講座(茶道・スポーツ・プログラミング)で開催しました。



ロング
ブリリアント



ショート
ブリリアント

成果と課題

- ・今年度は、両小野学園として数年変更されていなかった「目指す子どもの姿」の見直しが図られ、新たにグラウンドデザインを見直し、CS 年間計画を整え、保小中足並みをそろえて4月からスタートすることができた。
- ・第2回の両小野学園職員会と学園運営委員会共催で、「両小野学園構想への願い」と題した岩下隆弥様による講演会を開催し、両小野学園に携わる者が学園構想に寄せられた地域の願いについて共通認識を得ることができた。今後、その願いをもとに、今の時代に即した形で地域連携を地域とともに模索していきたい。
- ・コーディネーターの役割が明確化され、学校・地域のつながりがスムーズになったことで、生徒も地域の中に飛び出し、できることにはどんどん参加していこうという意識が育っている。

来年度改善点・方向

第2回の両小野学園職員会・学園運営協議会で共有されたことを、具体的な形として活動につながるよう、今年度の小中合同の職員会や学園運営協議会で連携の在り方や活動を見直し、来年度、学園としての一体感をより強くもって運営できるようにしていく。特に、本校の特色であるアントレプレナー学習は小学校の総合的な学習からの接続も考慮して、地域と一体になった活動になるよう努めていきたい。



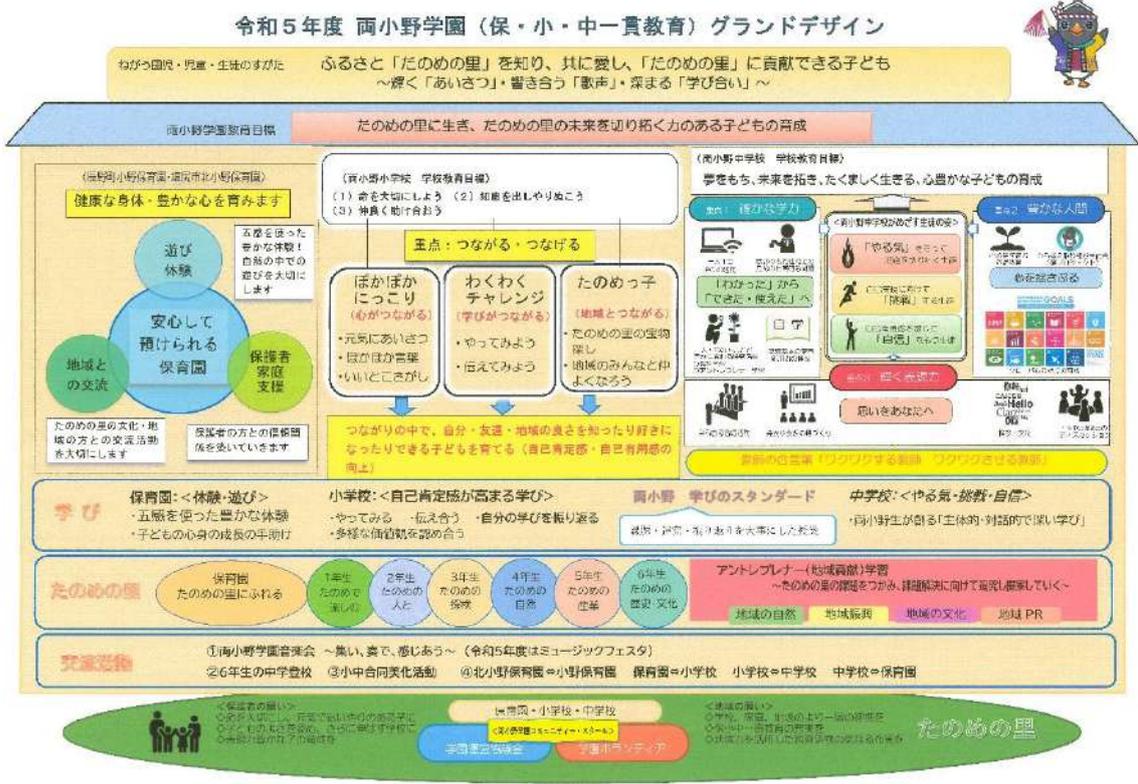
のため
地域とともに 「憑の里」で生きる
両小野学園コミュニティ・スクール

辰野町
小野保育園

塩尻市
北小野保育園

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校

塩尻市辰野町中学校組合立
両小野中学校



両小野学園運営協議会

地域委員会・学園支援委員会・評価委員会・広報委員会の4つの委員会で構成され、年に4回開催されています。コロナ禍で停滞ぎみであった各委員会の役割 についてももう一度見つめなおし、子どもたちのため、学校のためにできることは何かを熟議しています。

第2回では小中職員と運営協議会の皆様とグループに分かれ、ワールドカフェ「両小野学園で目指すこどもの姿」について、意見を交わしました。

職員と地域の方とのつながりがここのところ希薄でした。こうしてお互い顔を突き合わせて、子どもたちのことをざっくばらんに語り合うことによって、職員は地域のたのめの里の子供たち・学校への熱い思いを知り、また地域の方には職員から見た子どもたちの姿を知ることができました。



小野保育園・北小野保育園

保育園同士の交流



こいのぼり製作



春の遠足・小野保育園へ



合同バス遠足・未来館アラバ

地域との交流



御柱・木遣りごっこ



地元消防団との合同訓練



大根の種まき・収穫体験

小中との交流



中学校・文化祭の応援



小学生との交流



両小野中 70 周年記念事業
両小野ミュージックフェスタ

両小野小学校

地域の方々に見守られて



〈ボランティアさん紹介〉



〈毎月の読書ボランティア〉



〈木遣りを一緒に〉

地域の「ひと、もの、こと」とつながろう



〈5年生 米作り〉



〈木遣り発表会〉



〈地域の川で遊ぶ〉



〈親水公園で川遊び〉



〈2年生 大豆作り〉



〈凧あげクラブ〉



〈4年生 水の学習〉



〈5年生 もちつき〉



〈夢サロン 職員も共に学ぶ〉

両小野中学校

「憑の里」両小野学園の中学校として

今年度は両小野中学校70周年記念、また小野御柱祭の開催年ということもあり、学校と地域の方が一緒に楽しむ時間をたくさん創ることができました。「御柱にお越しいただいた方に楽しんでいただき。」と地域の皆さんからご寄付いただいた鯉のぼりをグラウンドに揚げ、祭り会場では両小野PRキャラクター「うとう」とオリジナル法被を着た生徒・職員で祭りを盛り上げました。



10月9日(月・祝)に行われた70周年記念事業「両小野ミュージックフェスタ」第一部両小野学園合同音楽会では、保育園から中学生まで全員の歌声が響きました。地域の皆様からは憑の里の子どもたちの姿に「感動しました。」という声をたくさんいただきました。

5/3～5 小野御柱(矢彦神社・小野神社)



10/1 たのめ市



10/28 日本ど真ん中ウオーク 名所ガイド



中学校職員による保育園児への読み聞かせ



<アントレプレナー学習> たのめ 憑の里の一員として、地域の課題に向き合う

地域対策（地域美化・小野御柱）、地域PR（キャラクター・地域行事）、地域の文化（両小野の衣食住）、地域の自然（霧訪山・紅葉山など）の4グループに分かれ、地域のために自分たちができることを実践しています。

11月には学園運営協議会委員や保護者の皆様にお越しいただき、発表会を行いました。全校生徒が4月からの活動内容を対話形式で説明し、質問にも自分の言葉で丁寧に伝えようとしている姿がみられました。



地域の自然グループ

川の生態調査を中心に活動しました。具体的には地域に流れる小野川に生息する生き物（魚や虫など）の調査や、川の水の資質検査などを行いました。



地域の文化グループ

地域で使われていない畑をお借りし、さつまいもを育て、PRキャラクターうとうの顔のさつまいもタルトを考案しました。発表会で多くの方に試食をしていただき、レシピを広める活動をしました。

地域対策グループ

地域の歴史的な建物についての調査や、清掃などの活動をしたその活動内容を発表するホームページを作成しました。



地域PRグループ

うとう君を使ってオリジナルのうちわを業者と一緒に作成し、70周年ミュージックフェスタで配布をしました。

アントレ学習発表会

地域の方より具体的なアドバイスをいただいています。



〈たのめブリリアント活動〉

ブリリアントとは「キラキラと輝く」という意味で、この活動を通して生徒、地域の皆さん、学校がキラキラ輝くことを願いとしています。コロナ禍で中止していましたが、昨年度より再開し、今年度はショートブリリアントとして夏休み中の半日を3講座(写真・ラジオ製作・アウトドア料理)、ロングブリリアントとして、2学期水曜日放課後全5回の4講座(手話・ダンス・ギター・茶道)を開催しました。



写真 小野・矢彦神社にて撮影

ラジオ製作 細かな作業に集中

アウトドア料理 ピザと炊飯



ダンス 基本の動きから



手話 もっと伝えたい!

茶道 静かに心を整えて



ギター 音を奏でる楽しさ

成果と課題

コロナ禍で停滞していた地域との連携について、学園運営協議会では各委員会の活動を再考し、小中職員も地域の方の思いに触れることにより、できることからやっという流れができた。また、コーディネーターの役割が明確化され、学校・地域のつながりがスムーズになってきた。生徒も地域の中に飛び出し、できることにはどんどん参加してという意識が育っている。

来年度改善点・方向

両小野学園として数年変更されていなかった「目指す子どもの姿」の見直しが図られたので、新たにグランドデザインの見直し、CS年間計画を整え、保小中足並みをそろえて4月からスタートしたい。

「地域のためにできること」を目標に学んでいるアントレプレナー学習であるが、内容や取組にマンネリ化がみられ、探求的な学びに至っていない。生徒が本気になって取り組めるために、地域の方のご助言を活かしながら、より「人・もの・こと」と関わり、発信力のある学びを創りたい。

両小野学園 保・小・中 一貫教育

	北小野保	小野保	1年	2年	3年	4年	5年	6年	中1	中2	中3
たのめの里の人・もの・こととのかかわり			たのめの四季	たのめの人と一緒に	たのめの宝探し	たのめの自然(水と川)	たのめの産業	たのめ歴史	○アントレプレナー学習 *全校縦割り4グループ		
	畑の秋作り	畑作り	地域の方とお花見下枝あさがおさん	大豆の栽培と加工 さつまいもの栽培と料理	小野神社 明倫館 小野宿 蔡林寺 古田記念館	霧訪山登山 かつとり城跡 分水樋	農業体験 米作り 米の販売	蔵造川 一里塚 水路橋 フットパス	・地域対策(地域美化・空き家) ・地域PR(キャラクター・地域行事) ・地域の文化(両小野の衣食住) ・地域の自然(霧訪山・紅葉山など)		
	大根種まきと収穫(JA)		遠足 重藤公園	老人院福祉との交流	榎木神社プラメタル 小野駅	駒沢川 色白水 大清水 小清水	おやす作り		○夢プロジェクト(地域貢献型生徒会活動)		
	ブルーベリー収穫	うとうくん	秋探し 小野公園	遠足 したれ栗 森林公園	遠足 荒神山	矢彦神社 畑作と料理	小野酒造	学校の歴史 (表現活動)	紅葉山種樹 フードドライブ 地域清掃 人権講演会 空き缶回収 赤い羽根募金		
	太鼓活動	環境整備	木遣り体験	木遣り体験	木遣り体験	クラブ(太鼓 郷土料理 木工 麻 昔の遊び) 児童会(福祉施設への花のプレゼント)			○ブリリアント講座 ・ロングブリリアント 夏休み中 (スタンドグラス風ランブ制作・WEBデザイン) ・ショートブリリアント 2学期水曜日放課後全5回 (茶道・フラワーアレンジメント)		
	お礼の手紙	読み聞かせ			読み聞かせ				しめ縄教室 救命救急講座 日本と真ん中ウオーク		
									1・2年合同(内容は隔年) 修学旅行 宿泊自然体験・日帰りキャリア学習 奈良・京都方面		
校外						長野見学	臨海学習	修学旅行			
学び	個別支援保育	両小野学びのスタンダード									
		<自己肯定感の高まる学び>						<やる気・挑戦・自信>			
		・良く聴く ・自分の考えを持つ ・伝え合う ・多様な価値感を認め合う						・両小野中生が創る「主体的・対話的で深い学び」			
交流	手紙交換 合同バス遠足								保育園・小学校の運動会参加(3年生 うとうくん)		
	年長さんと1年生の交流会							文化祭見学	6年生の中学校登校(11月2週間)		
		たのめっこ祭り(小学校)への参加									
	園の美化活動							地域美化活動			
		中学校の文化祭(霧訪祭)への作品展示									
		両小野学園音楽会									
仲間作り	異年齢交流	異年齢交流	①自分の良さや持ち味をたくさん見つける6年間 ②挑戦を応援できる良き仲間を作る6年間 ③少人数を活かし、つながりを大切に作る6年間(異年齢交流 児童会 クラブ活動 縦割り茶活動)						学年の枠を超えたつながり 生徒会活動 支部生徒会 部活動 縦割り清掃 総合的な学習の時間 ブリリアント活動		

両小野学園の目指す子どもの姿
ふるさと「たのめの里」を知り、ともに愛し、「たのめの里」に
貢献できる子ども

- 地域・職員連携
- ・両小野学園運営協議会 年4回(4月 8月 12月 2月)
 - ・小中合同学校保健委員会(10月)
 - ・小中交流参観授業
 - ・小中合同職員会 年4回(4月 8月 12月 2月)
 - ・小中合同民生委員との懇談会(5月)
 - ・小中合同 PTA 資源回収

保小中のつながり



毎年6月には、小学校4～6年生と中学校全校で小野地区・北小野地区9か所へ出向き、地域美化活動を行っています。日頃お世話になっている地域の方々や施設に感謝の気持ちを表すとともに、小中一緒に活動することで連携を深めています。

また、中学3年生が、両小野 PR キャラクター「うとう」と一緒に保育園や小学校の運動会に参加し、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方にも喜ばれています。





小野保育園・北小野保育園



10月の合同遠足では、塩尻市の林業センターへ行き、交流を深めました！

年少・ペンダントを作ったよ！



年中・木のおもちゃで遊んだよ



年長・一緒にダンスを楽しんだよ！



小中学生による・美化活動



地域の方に感謝
～畑活動～

両小野小学校

地域の方々に見守られて



〈1年生 下校の見守り〉



〈遠足も一緒に〉



〈マラソン大会の見守り〉

地域の「ひと、もの、こと」に学ぶ



〈2年生 野菜栽培活動〉



〈5年生 お米づくり〉



〈地域に学ぶクラブ活動〉



〈4年生 たのめの里の川〉



〈木遣りを教えていただきました〉



〈木遣りを運動会で披露〉



〈6年生 霧訪山に登ろう〉



〈4年生 地域めぐり〉



〈3年生 出前授業〉

両小野中学校

〈アントレプレナー学習〉 たのめの里の一員として、地域の課題に向き合う

地域対策（地域美化・小野御柱）、地域PR（キャラクター・地域行事）、地域の文化（両小野の衣食住）、地域の自然（霧訪山・紅葉山など）の4グループに分かれ、地域のために自分たちができることを実践しています。

11月には学園運営委員や保護者の皆様にお越しいただき、発表会を行いました。全校生徒が4月からの活動内容を対話形式で説明し、質問にも自分の言葉で丁寧に伝えようとしている姿がみられました。



〈地域の皆様と〉 林業体験 読み聞かせ 日本土真ん中ウオーク

学区内にある紅葉山。地域の皆さんの「たくさんの人に愛される山にしたい。」という思いに触れ、林業体験として北小野財産区の方のご指導を受け、全校で整備作業・紅葉の植林を行いました。また、11月に久しぶりに開催された日本土真ん中ウオークで、3年生がガイドを務め、参加者に見どころを説明しました。



〈地域の皆様を講師に〉 たのめブリリアント活動

ブリリアントとは「キラキラと輝く」という意味で、生徒、地域の皆さん、学校がこの活動を通してキラキラ輝くことを願いとしています。コロナ禍で中止していた活動でありましたが、今年度は夏休み中（1日）2講座（スタンドグラス風ランプ・WEBデザイン）、2学期（全5回）2講座（フラワーアレンジメント・茶道）を開催しました。





地域とともに 「たのめの里」 で生きる 両小野学園コミュニティ・スクール

辰野町
小野保育園

塩尻市
北小野保育園

辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校

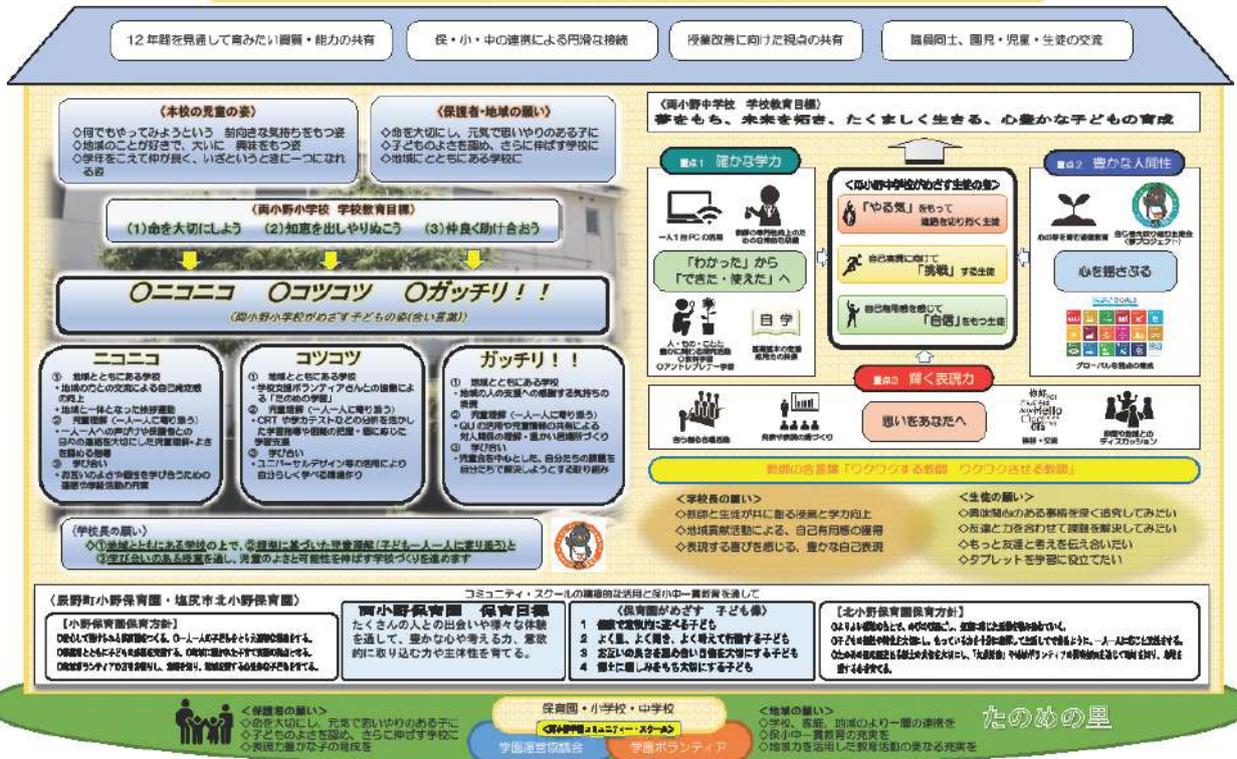
塩尻市辰野町中学校組合立
両小野中学校

令和3年度 両小野学園（保・小・中一貫教育）グランドデザイン

両小野学園教育目標

たのめの里に生き、たのめの里の未来を切り拓く力のある子どもの育成

両小野学園のながう児童・児童・生徒のすがた みるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる子ども
～楽しく「あいさつ」・喜ぶ合う「歌声」・遊ぶ「遊び合い」～



《今年度の成果》

- 学園運営協議会が新体制でスタートし、各委員会が必要に応じて会議を招集
- コロナの状況を見ながら交流を実施することができた
 - 保育園どうしの交流 保育園と小学校 小学校と中学校 保育園と中学校
 - 学校と地域との交流や参観
- 子どもの願いを支えてくださる地域の活動があった
 - 明日の地域を考えるシンポジウム：中学生と地域の住民の声を聴く
 - 2021 たのめの里ファイナル花火：中学生議会への意見から地域で花火打ち上げ
- 小中の連携をすすめるための学園職員会、小6登校および学園職員交流研修を実施
 - 教育委員の講話、小中相互の授業参観および振り返りの研修を実施



小野保育園

北小野保育園

<北小野保育園と小野保育園との交流（合同遠足）>

たつの未来館「アラパ」へバス遠足

- ・3歳以上児で学年ごとグループを作り、4つのコーナーでの遊びを一緒に楽しむ（ホールで集団遊び、ボルダリング、キックバイク、ホタルの観察）
- ・一緒に弁当を食べる



<両小野小1年生との交流>

- ・1年生との交流
- ・1年生に手をつないでもらい、学校の中を案内してもらう
- ・体育館でゲームをし、風車をもらう



<両小野小1・2年生との交流>

- ・オペレッタの発表
- ・体育館でジャンケンゲーム、鬼ごっこを一緒に楽しむ



<両小野中との交流>

- ・手作りのハンカチをプレゼント
- ・絵本をプレゼント
（空き缶回収の収益から）



両小野小学校

<1・2学年 『ボランティアさんに
オペレッタを発表しよう』 >



1、2年生は、お世話になったボランティアさんをお招きし、オペレッタを観ていただきました。発表の後は、肩たたきなどで楽しく交流しました。

<4学年 『たのめの里の川』 >



4年生はふるさとの川を学びました。地域の願いでもある駒沢川の「親水公園」設置に向けて、川に寄せる夢を語りました。

<4年～6年
『ボランティアさんとクラブ活動』 >



今年も、地域の「ひと・もの・こと」から学ぶクラブ活動を行いました。「太鼓」「ふるさと料理」「木工」など、7つのクラブを実施しました。

<2学年 『ボランティアさんと大豆の収穫』 >



2年生は、年間を通してボランティアさんと大豆の栽培活動に取り組みました。秋にはきなこ作りを行いました。これから豆腐作りに挑戦します。

<5学年 『ボランティアさんとお米作り』 >



5年生はボランティアさんや保護者のみなさんと一緒にもち米作りに取り組みました。心(こころ)学年(ねん)になぞらえて「心米(しんまい)」と名付け、地域の皆さんにも販売し、喜んでいただきました。

<全校 『マラソン大会 見守りありがとう』 >



普段の登下校をはじめ、遠足、社会見学など、ボランティアのみなさんの見守りのおかげで、安全に学習活動を行うことができます。

両小野中学校

<アントレプレナー学習> たのめの里の一員として、地域の課題に向き合う

○地域対策（地域美化・空き家）
空き家（教員住宅）清掃



地区センターの清掃



空き家マップ制作



○地域PR（キャラクター・地域行事）
HP 製作



LINE スタンプ製作



交通安全マップの発表



○地域の文化（両小野の衣食住）
野菜作り



地域食材を使って試作



ハンカチ・キーホルダー製作



○地域の自然（霧訪山・紅葉山など）
看板製作



登山者カウンターの説明



霧訪山の植物紹介



<小6中学校登校> 11/1~12 小中のつながり

中学の先生と授業

ホール給食

部活動体験

生徒会企画（レク）



学園運営協議会



地域委員会

『児童・生徒たちの声が地域に届く』

①「生徒たちは地域を活性化しようと考えている」ので、子どもたちが何を望んでいるのか聞いてみたい。

②『うとう君』は、子どもが考えて、地域に投げかけられた。今度は逆に提案しても良いのでは。
《生徒会の動き》

辰野町中学生議会の発言で『コロナ収束、夏の豪雨災害地区の早期復旧などの願いを込めた花火の打ち上げ』や『地域のお年寄りのため、遊歩道の修繕』など発言し要望した。

⇒議会答弁では花火は実現には至らず。遊歩道の修繕は実施済み。

⇒それを受けて地域（区会）が立ち上がり、花火のための補助金や安全のための特別警戒を消防団などに要請し実現。

*当日の花火には生徒たち一人一人が書いた願いが貼られ、打ち上げられました。



* “両” 小野地域と学校との意見交換の場作り



学園支援委員会

『ボランティア活動後の子どもからの手紙がとても嬉しい、やりがいを感じる』

①「コロナ禍」地域活動のできにくい状況が続いた。今後は地域と学校との協働活動の取組方や対応が重要になる。

②活動として、「子ども見守り」を地域の方が個人的にまたは地区によっては“見守り隊”が発足し、登下校に付き添いながら見守りをしている。（挨拶運動も兼ねており、今ではドライバーの方からも挨拶されることがあります。）

*ボランティア活動でのかかわりだけでなく、学校行事の発表会などにも参観に来て児童・生徒の様子を見てくださるボランティアの方もおり、児童・生徒たちにとっても励みになっています。

《今後の提案》

- ボランティア活動に伴う実費の補助（燃料費など）
- 学校と地域がともに学ぶ“教育の日”を4年ほど前からやっていた。先生方から学ぶと同時に、生徒とふれあいながら地域作りを考える大切な活動が休眠状態、もう一度原点に戻って考えてみたい。など、地域教育協議会として実現したい。

※空き教室が『ボランティア活動』『地域交流の場』になったらいいですね！（コーディネーターのつぶやき）

* 地域の皆さんお一人お一人が先生



広報委員会

- ①学園が地域の人たちに知らせたいことは何か。地域の人たちが知りたい学園とはどんなことか。
- ②各専門委員会の横のつながりが見える情報の交換便でありたい。
- ③児童・生徒たちが頑張っているところや地域の人たちとふれあっている様子をもっと多くの人たちにも知ってほしい。地域の思い、先生方の思いや子どもたちの思いなどを伝えたいが情報収集や交流の難しさがある。

《今後の活動の糸口》

- ①以前に作ったリーフレットが古くなっている。リニューアル版を作成する。
- ②『北小野地区振興会だより』などの地域情報紙の活用。編集担当と相談を進める。
- ③創立 70 周年に向けての学園としての協力を発信する。
両小野地区振興会及び両小野中学校同窓会（塩尻市と辰野町への働きかけ）と協力する。
- ④HP や広報作りのノウハウが未だ難しい。保育園や学校との情報の共有など考えてみる必要あり。（学校と保育園 塩尻市と辰野町など）

「学園内の児童・生徒たちとそれを寄り添いながら一生懸命見守るボランティアの方々や地域の人たち・・・そんな声を集められたら」



評価委員会

『評価活動を通して、一歩先の地域とともにある学園づくりを』

- ①今年度の活動について
 - ・コロナ禍の中、学校自己評価や学校関係者評価を関連付けながら、よりよい学園運営の在り方を求めていくための持続的なコミュニケーションの機会を取ることが難しかった。
 - ・学園運営の重点に即した学園共通の学校自己評価項目や学校関係者アンケートの内容やまとめ方の再検討をすることが、小中学校間でも評価委員会においても進められなかった。
 - ・学校関係者評価の結果や提言について提案し、次年度の学園運営にどう生かすのかについての討議を、学園運営協議会メンバー全員が共有できるまで十分に深めることができなかった。
- ②今後の活動への提案
 - ・評価委員会の活動が次年度以降の学園運営に確実に生かされ、地域とともにある学園づくりがPDCAの好循環を形成しながら質を高め続けられるようにしていきたい。
 - ※学園運営の重点に沿った評価項目の設定→実践活動→学校自己評価→学校関係者評価→評価委員会の提言→学園（小中学校）での運営計画の検討→新たな運営計画の策定など
 - ・専門委員会が独立して活動を進めることが多いが、地域とともにある学園づくりを実現していくためには、学園全体の在り方や現状を自由闊達に議論し、コミュニケーションと信頼関係を構築しながら一歩先に踏み出していくための小委員会的なものがほしい。そこでの議論が各専門委員会の活動や日々の学校での教育実践に具体的に生かされるようにしたい。

地域とともに 「たのめの里」で生きる

両小野学園コミュニティ・スクール



辰野町
小野保育園

塩尻市
北小野保育園

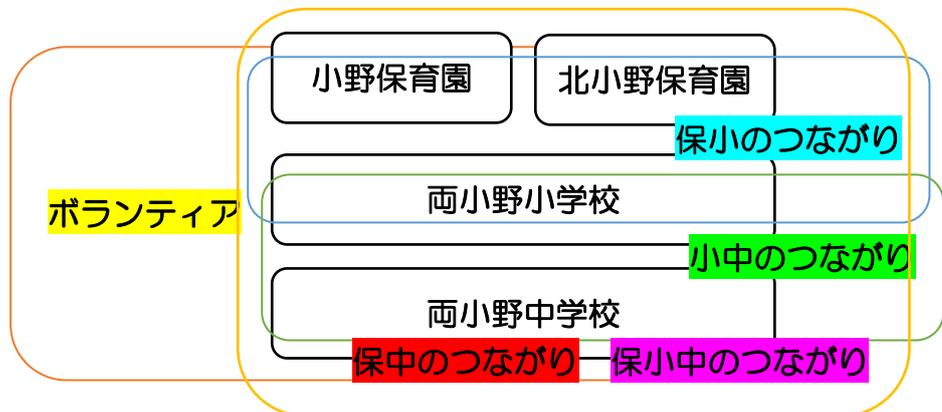
辰野町塩尻市小学校組合立
両小野小学校

塩尻市辰野町中学校組合立
両小野中学校

両小野学園の願う園児・児童・生徒のすがた
ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる子ども
～響く「あいさつ」・響き合う「歌声」・深まる「学び合い」～

RYOONO PR CHARACTER
両小野PRキャラクター

うとう



ボランティア

登下校の見守りボランティア、校内の消毒ボランティア
マラソン大会見守り、
小学校「たのめ科」の学習へのボランティア、
中学校「アントレプレナー学習」へのかかわり 等

保小中のつながり

学園音楽会

保中のつながり

職場体験
保育園実習
保育園交流

保小のつながり

小1・小3との交流

小中のつながり

小6の中学校登校

《今年度の成果と課題》

○コロナ禍で活動が縮小

地域の皆さんが参加できず・・・学園音楽会、アントレプレナー学習発表会

○小学校「ボランティアルームの地域開放」へ動き出す

○消毒ボランティア

既存のボランティア組織 と 地域の皆さんの力

○行動する運営協への第一歩

小野保育園

<クリスマス会>

サンタさんからすてきなプレゼントをもらったよ



北小野保育園

<両小野小3年生との交流>

リコーダーの発表
すてきな発表!



<両小野小1年生との交流>

校内を案内
手をつなぐと安心

小学校は楽しそう!



両小野小学校



地域教育協議会のみなさんをはじめ、地域のみなさんが、毎日校舎内の消毒に来てくださいました。安心して学校生活を送ることができました。

〈ボランティアさんによる消毒作業〉

11/17に行われたマラソン大会では、大勢のボランティアのみなさんに安全を見守っていただきました。応援もしていただき、力をもらいました。



〈マラソン大会の見守り〉

〈ボランティアさん紹介式〉



〈朝の登校見守り〉



コロナ禍ではありますが、ボランティアのみなさんは、いつも身近にいてくださいます。紹介式で顔とお名前をみんなで覚えしました。

本年度はコロナ禍ではありますが、12月現在、のべ44のボランティアのみなさんによる支援事業が行われ、のべ142名のボランティアのみなさんに支援していただきました。これら支援事業とは別に、校舎内の消毒作業や登下校の見守りに大勢のボランティアのみなさんがあたってくださいました。



〈田植え〉



〈さつまいもの苗植え〉



〈かかし立て〉



〈さつまいもの調理〉

ボランティアさんと
一緒



〈運動会 うとうくん登場〉



〈稲刈り〉



〈秋探し〉



〈大豆 脱穀〉



〈たのめの里めぐり〉



〈スイートポテトづくり〉

両小野中学校

<夢プロジェクト>

夢プロジェクト第12号 「辰野町中学生議会」

(令和2年8月26日水曜日開催)

地域のために願いを持ち始めたこの夢プロジェクト、今回が今年度初めての夢プロジェクトとなりました。『地域のために何ができるか』を全校みんなで考え、意見を出し合い、辰野町中学生議会において代表して生徒会三役が提案をしました。両小野に住む地域の方々へ安全に快適に暮らすための良い提案ができました。

また、辰野町長、辰野中学校の生徒会の方々にとつゆゆるキャラグランプリ投票への協力をお願いすることができました。

夢プロジェクト第13号 「災害募金活動」

(令和2年9月17日木曜日開催、義援金寄付11月11日)

『つと』を活用した地域貢献活動として、全校から意見を出していただいた中から計画された災害募金活動。今回は1年生が塩尻駅で募金活動を1時間行いましたが、多くの方々から御まじりの言葉やあたたかい寄付をいただきました。後日、日本赤十字社塩尻支店長小口市長さんに義援金として寄付しました。

夢プロジェクト第14号 「記念樹」

(令和2年10月22日木曜日開催)

地元の名産である『つと』を多くの人たちに見てもらいたいという願いを持ち、始まった夢プロジェクト。今年は3年生の卒業記念樹として願い活動がなされた。

<ゆるキャラグランプリ>



最終結果 **37位**
9814P

全国の人に
両小野を知ってもらいたい!!

コロナ禍でのポスター・チラシの配布依頼

両小野地区へ全戸配布
地域の店や公共施設に掲示依頼
両小野小へ依頼
塩尻市内、辰野町内の中学校へ
生徒会を通じて全生徒への配布依頼
両小野学園運営委員による配布

塩尻市・辰野町PRキャラクター「うとう」くんがゆるキャラグランプリにまた出場します!!

1日1回投票よろしくお願ひします!

グループ投票方法 投票期間7月1日~9月25日

QRコード: <https://www.yurakara.jp/yurakara/methods>
両小野中学校生徒会 0266-46-2957

~多くの皆様のご協力を
いただき、感謝です~

<アントレプレナー学習>

○地域対策（地域美化・空き家）
空き家対策について話をきく



見学



古田晁記念館の清掃



○地域PR（キャラクター・地域行事）
地域紹介について意見交換 コロナ予防啓発ポスター



交通安全
看板



○地域の文化（両小野の衣食住）
小野酒造さんへ取材 地域食材を使ったおやきの試作



手作りマスクの寄贈

○地域の自然（霧訪山・紅葉山など）
ベンチ製作



ベンチの設置

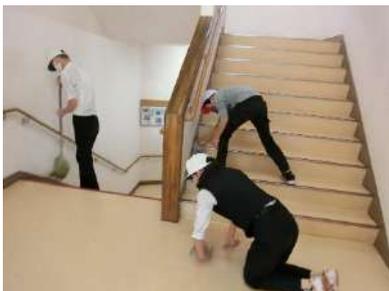


HPの作成



<小6中学校登校> 11/10~13

一緒に清掃



交流



終了式



学習支援・行事（地域ボランティアの方のお力をお借りして）

各学年の学習活動で、多くのボランティアの方からご指導を受けています。



缶バッチづくり（3年生）



書き初め教室（1年生）



書き初め教室（2年生）



しめ縄教室【社会科：身近な地域】



ビブリオバトル【読書ボランティア】

全国へき地教育研究大会 長野大会 ～全国の先生方から賞賛の声～



【アントレプレナー学習中間発表会・夢プロジェクト 11 号に向けてのグループの話し合いを授業公開。主体的・対話的で深い学びの実践に、全国から集まった先生方から賞賛の声を多くいただきました。】

うとう君と共に！ ～県内外への PR、そして地域の方を笑顔に～



【ゆるキャラグランプリで全国に両小野を PR】



【小学校訪問、「笑顔」に囲まれて】

【成果と課題】

- 生徒は、小学校「のための時間」で学んだことを基盤に、「アントレプレナー学習」、地域貢献型生徒会による「夢プロジェクト」の活動を通して、地域貢献を行ってきた。生徒は、地域の方に喜ばれることで、「自己肯定感」を高め、大きな「自信」を得ている。また、学校は、地域との連携を図り、子供たちのよりよい成長を協力して行うことができている。さらに、地域の方々には地域への子供たちの参画を受け、やりがいや元気をもって活動に取り組んでいる。
- また、本年度は、ゆるキャラとして「両小野 PR キャラクターうとう」が誕生し、ゆるキャラグランプリに参加したり、テレビなどのマスコミにその活動が取り上げられたりし、県内外に両小野を PR することができた。また、地域に愛されるキャラクターとして地域の方を笑顔にし、元気を与える活動ができた。
- ◆今後、アントレプレナー学習や夢プロジェクトの活動を通して身に付けてきた、「主体性」や「人と関わる力」、「思考力・判断力・表現力」を、どの教科でもより生かしていきたい。



塩尻市辰野町中学校組合立 両小野中学校

ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できることも

コミュニティ・スクール
としての一体感

地域ボランティアの
充実

アントレプレナー学習で
培った地域への思い

学びの場を地域に広げ、地域課題に基づいて、生徒が主体性を発揮する仕組み
地域貢献型生徒会による「夢プロジェクト」

夢プロジェクト第1号 「油屋清掃活動」

(4月7日土曜日)



油屋保存会の方からの依頼を受けて、小野宿市に向け、3年生の有志が油屋の清掃活動に協力しました。



【保存会の方の願いを受けて】

夢プロジェクト第2号 「ぼくらの記念樹」

(5月7日月曜日)



信州電機高専カントリー(株)の山田正治社長の提案を受けて実現した夢プロジェクト。真っ赤に色づく紅葉を楽しみに、たくさんの人がたのめの里を訪れてくれることを願って、もみじ山に卒業記念樹「もみじ」の苗木を植樹しました。



【地域の山を紅葉の名所に】

夢プロジェクト第3号 「小野宿市盛り上げ隊」

(5月20日日曜日)

アントレプレナーグループ、吹奏楽部、美術部、生徒会が協力して、小野宿市を盛り上げました。PRキャラクター「うとう」もグッズやスタンプになって大活躍でした。



【地域興しの企画に実行委員として参画】

夢プロジェクト 号外 「神社の周りを片付け隊」

(9月5日水曜日)



台風21号が去った後、小野神社と天彦神社の廻りは草や折れた枝が大変。朝、登校した生徒が次々と道具を持って片付けに出掛けてくれました。「もう少し時間が欲しい」と生徒会も動き、1校時時間まで作業が続けられました。

【地域のピンチにぼくらの手で】

夢プロジェクト第4号 「ふるさとコンサート」

(9月24日 月曜日)



歌声でたのめの里に元気や笑顔、感動を届けるために、手作りのコンサートを企画しました。中学生の歌声だけでなく、コール蒲葎や波田少年少女合唱団の歌声も体育館いっぱいに響き渡り、最後は会場全員による「ふるさと」の大合唱で最高の一体感を味わうことができました。

【地域学校協働活動の中で】

夢プロジェクト第5号 「日本土真ん中ウォーク」

(10月27日 土曜日)



日本土真ん中ウォークに全校で参加して盛り上げました。研方隔っていた厩も快晴に変わり、美しい紅葉の中で、グッズ販売やおやつ、クッキーの試食、スタンプラリーやクイズ、歴史説明などの活動をしました。2.0kmを一掃に歩いて盛り上げてくれた健闘もいました。

【全校で地域行事に参画】



学習支援・プレジョブ (地域ボランティアの方のお力をお借りして)

放課後自主学習会・夏休みの自主学習や各学年の学習活動でボランティアの方からご指導を受けています。



サマーセミナー (たのめ塾)



しめ縄教室



書き初め教室



地域講師の方を招いての授業【社会科：身近な地域】



プレジョブ【チロルの森で】

プリリアント学習 (地域の方から文化や伝統を学んで)

華道・茶道・フラワーアレンジメント・ゴルフなどを学び、地域の方から文化・伝統・スポーツを伝承していく課外活動。夏休みには、里山、川遊び、地域食、写真の講座を開き1日開催の課外学習も行っています。



フラワーアレンジメント



茶道



華道



ゴルフ



地域食【ロングプリリアント】

プリリアント学習には、毎週水曜日に行うショートプリリアントと夏休みに行うロングプリリアントとがあります。



両小野PRキャラクター「うとう」

アントレプレナー学習（地域貢献を目指して）



空き家対策グループ



霧訪山グループ



キャラクター・地域PRグループ



地域行事グループ



地域食材グループ



アントレプレナー学習発表会

保育園、小学校、中学校へ繋ぐ地域の支援（保小中一貫教育）



保育園



小学校（たのめ科）



中学校（アントレプレナー学習）

文部科学大臣賞受賞 ～地域学校協働活動に関わって～



【NHKの報道での様子】



【児童会と生徒会の受賞記念写真】



【受賞を受けて塩尻市長表敬訪問】

【成果と課題】

○生徒は、小学校「たのめ科」で学んだことを基盤に、アントレプレナー学習、地域貢献型生徒会による「夢プロジェクト」の活動を通して、地域貢献を行ってきた。生徒は、地域の方に喜ばれることで、「自己肯定感」を高め、大きな「自信」を得ている。また、学校は、地域との連携を図り、子供たちのよりよい成長を協力して行うことができている。さらに、地域の方々は地域への子供たちの参画を受け、やりがいや元気をもって活動に取り組んでいる。

○このような地域との連携の中で、地域学校協働活動が大きく評価され上記の受賞を受けることができた。

ふるさと「たのめの里」を共に愛する生徒の育成を目指して

～地域貢献をコンセプトにした 両小野学園 コミュニティ・スクール～

1 学校運営協議会の取組み

第1回 4月17日(月) 発足の会 第2回 7月19日(水) グランドデザインについて

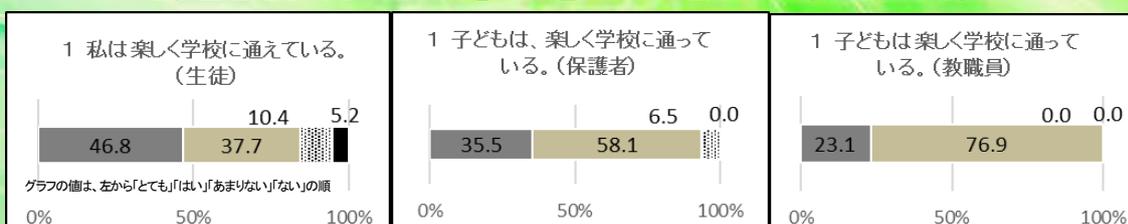
第3回 12月8日(金) グランドデザイン・学校自己評価・地域貢献型生徒会について

熟議題

●学園グランドデザインについて

●学校自己評価から

- 本年度は、小学校と中学校で統一した質問項目にそえるよう調整をし、評価項目を作成した。また項目をグラフ化し、よりわかりやすいものにした。また、児童・生徒、保護者、教師についても項目をそえることで、意識の違いにも着目し、分析を図った。



●生徒会の新しい組織編成と方針

- 今回は、生徒会長が運営協議会に参加し、「地域貢献型の生徒会」を組織したいと発表。既存の生徒会活動だけでなく、地域活動への参画、福祉交流、環境整美のグループを組織し、地域貢献に努めたいという内容の話をし、運営協議会に参加していた皆さんから多くの賛同と、協力を全面的に行いたいという意見を得た。※以下12月12日新聞記事(市民タイムス)



第4回 2月22日(木) 予定熟議題「平成30年度の学校経営と学校運営について」(予定)



【運営協議会長 岩下隆弥さんより】

次世代の後継者にエール!

両小野学園は、新たなステージへ飛躍します。今年「地域貢献型の生徒会」が誕生しました。7年間、地域と学園で協働した保・小・中一貫教育の宝物です。新時代を切り拓くパイオニアの皆さんにエールを送ります

【成果と課題】

- 「保小中一貫した12年間で育てたい子どもの姿」を学校・保護者・地域が共有し、活動を明確化するためにアンケートなどを実施し、12年間を見通した「グランドデザイン」を作成した。
- 生徒会長が、運営協議会にも参加し、地域に自主的にかつ積極的に思いを発信することができ、地域の方々からも協力を全面的に行いたいという意見を頂くことができました。
- ▲全戸に、広報誌を配布したり、学校便りなどを配信したりしているが、運営協議会で「熟議」したこと等を、地域の方により伝えられるよう心がけたい。

2 地域教育協議会の取組み

学習支援（地域ボランティアの方のお力をお借りして）

放課後自主学習会・夏休みの自主学習や各学年の学習活動でボランティアの方からご指導を受けています。



サマーセミナー（たのめ塾）



しめ縄づくり



書道教室

アントレプレナー学習（地域貢献を目指して）



御柱大祭への参画
5月3日～5日



土真ん中ウォークへの参画
10月28日（土）



アントレプレナー学習発表会
11月25日（土）

【とっておきの話】

アントレプレナー空き家対策～掃除した空き家から脱穀機が見つかり、その器具を小学校の活動「大豆作り」へ～
空き家対策のグループが、アントレプレナー学習の中で、空き家を掃除。そのとき、出てきた「脱穀機」のことを知った小学2年生の皆さんが、自分たちの総合的な学習での「大豆作り」に使わせてほしいと依頼。小中連携の総合的な学習につながった。



【成果と課題】

○アントレプレナー学習を通し、地域の活動に参加し、喜ばれることで、生徒は「自己肯定感」を高め、大きな「自信」を得ている。また、地域との連携を図り、子どもたちのよりよい成長を協力して行うことができている。地域への子どもたちの参画を受け、やりがいや元気をもって活動に取り組んでいる。

▲アントレプレナー学習で見い出された課題を、全校で取り組むために、地域貢献型の生徒会のチームのコーディネートによる活動を構想している。

熟議と協働による保小中一貫教育 両小野学園コミュニティ・スクール (塩尻市辰野町中学校組合立両小野中学校)

児童・生徒数の減少に伴う、学校存続の危機感を持った地域住民の声からスタート

地域学習の充実

- ・地域の良さを発見する学習
- ・自分の良さや可能性を発見する学習

【これまでの経緯】

- ・平成23年度から両小野学園・施設分離型小中一貫教育推進校開始。
- ・平成26年度から保育園も含め12年間を見通した保小中一貫教育に進化。
- ・平成27年度からコミュニティ・スクールに指定を受け、取り組み中。

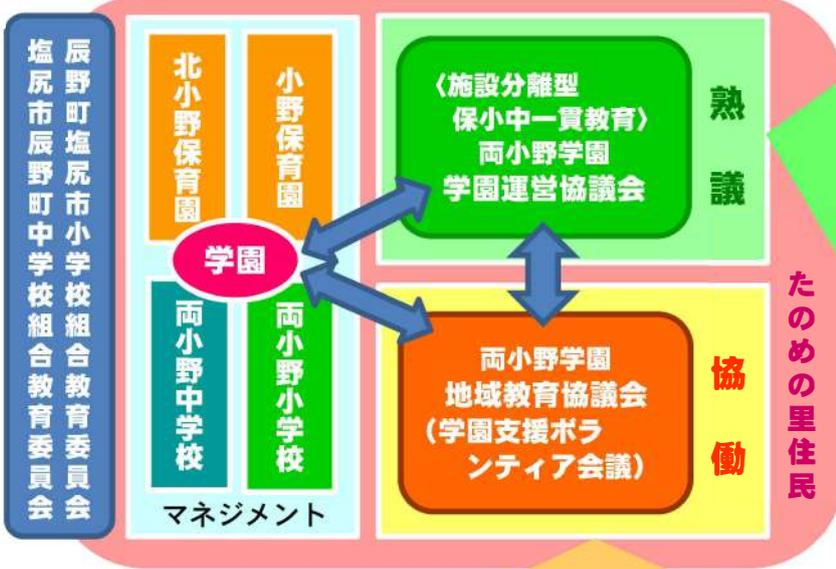
→ 地域社会への参画

学園教育目標

たのめの里に生き、たのめの里の未来を切り拓く力のある子どもの育成

学園運営協議会の専門委員会における「熟議」を通して目標・ビジョンを共有し、それを実現させるために地域教育協議会（学園支援ボランティア会議）と学校（学園）とが「連携・協働」による取組を行っています。

両小野学園コミュニティ・スクールの仕組み



4つの専門委員会

(小中の校長教頭がそれぞれの事務局となります)

- ①地域委員会
 - ・小野と北小野という地域性を踏まえながら、両小野学園としての地域行事等への参加・参画等について話し合います。
- ②学園支援委員会
 - ・学校や保育園への年間を見通した支援計画や支援のあり方について話し合います。
- ③評価委員会
 - ・学校評価の項目や集計結果について協議し、次年度にいかされる学校関係者評価を実施します。
- ④広報委員会
 - ・学園だより『たのも〜』の発行（カラー版全戸配布）を始め、ホームページの内容の検討や地域住民への広報の仕方等について話し合います。



地域教育協議会（学園支援ボランティア会議）

- | | |
|------------|----------|
| ①学習支援部 | ⑤読書支援部 |
| ②キャリア教育支援部 | ⑥野外活動支援部 |
| ③特別支援教育支援部 | ⑦たのめ支援部 |
| ④安全安心支援部 | ⑧環境支援部 |



地域学習の充実（小学校「たのめ科」 中学校「総合的な学習の時間」）

- ・両小野の自然、歴史・文化、産業、人々の生き方に探究的・体験的・創造的に関わることを通して、両小野の良さに気づき、両小野を愛する子を育てます。
- ・自己肯定感・自己有用感を育み自己の生き方を見つめ、自らの将来の夢に向けてたくましく生きようとする子の育成を図ります。

熟議（協議）と協働

○地域主導のサマーセミナーの実施

中学校で夏休みに行っている『サマーセミナー』。限られた日での開催のため、職場体験やブリリアント活動との重なりで参加できない生徒が出てしまっていました。その点を含め、よりよい『サマーセミナー』のあり方を熟議し、地域主導で実施する方向で進めていただけたことになりました。

学習支援部とコーディネーターさんとが中心になり、学校と連携しながら計画を進めていただき、夏休み中9日間の『サマーセミナー』が実現しました。前述の課題も



解決できました。夏休みの始めと終わりに設定し、宮前公民館（北小野）と村図書館（小野）を会場に実施。9日間で延べ65人の参加がありました。自由に質問したり聞き合ったりできる気楽な雰囲気のある『サマーセミナー』。参加した児童生徒も学習ボランティアの方も、笑顔で楽しく学習している姿が印象的でした。全日程終了後、学校側そして学習ボランティアの方からも「今後、『サタデースクール』のような形で範囲を広げて実施したい」との声が上がり、実現に向けて検討が始まりました。



地域とのつながり

○アントレプレナー学習

地域の活性化を目指し、小野宿市や日本土真ん中ウォーク等の地域のイベントへの参画や空き家対策等の地域の課題に取り組みました。イベントでは自分たちの活動が参加者や地域の方に認められ、確かな手応えを感じることができました。



手作りのオリジナルグッズを販売（小野宿市）



スタッフとして参画（日本土真ん中ウォーク）



小野北小野各振興会長さんとの意見交換（空き家プロジェクト）

○ブリリアント活動

地域の方を講師とする体験的な課外活動を通し、地域の方も生徒も生き生きと輝くまさにブリリアントな活動となりました。



地域の方との意見交換（アントレプレナー学習発表会）



塩竈カントリーにてゴルフ体験（ブリリアント活動）



安心して一所懸命働きます（ふれジョブの体験）

○ふれジョブの体験

特別支援教育支援部の方がサポーターとなり、地域での職場体験を行いました。一所懸命働いたことを事業主さんやサポーターさんに認められ自信を持って活動できました。

保小中一貫教育



○両小野学園音楽会（10月）

園児・小学生・中学生が一堂に会しての音楽会。保護者や地域の方もたくさん来場され、保育園から中学3年生まで、それぞれの演奏を楽しみました。

○小学6年生の中学校登校（11月）

6年生が約1ヵ月間、中学校にて生活します。教科によって、中学校の教科担任の授業を受けます。始めは緊張していた6年生も、優しい

先輩の姿に安心して生活し、中学入学を楽しみに小学校へ戻っていきました。

○学園美化活動（5月・8月・10月）

小学生・中学生が縦割り班に分かれ、小野駅・地区センター・介護予防センター・診療所・神社・保育園等の地域の施設の美化活動を行いました。保育園では美化活動終了後、園児との交流の時間も持てました。



成果と課題

○地域の活性化を目指すアントレプレナー学習では、実際に地域のイベントや行事に参加・参画し、地域への貢献を認められ頼りにされることにより、地域への愛着心の高まりや自己有用感・自己肯定感の高まりが見られました。また、地域の課題と向き合いその解決に向けて地域と共に取り組んでいこうとする姿が見られました。

○子どもたちが取り組んでいる活動を保護者や地域の方に知っていただき、これまで以上に地域とつながり、一緒になって地域の課題解決に向けた取組を進めていきたいと思います。

《特別寄稿》コミュニティ・スクールの11年を振り返る



両小野学園 学校運営協議会長 小野 芳幸

両小野学園がコミュニティ・スクールとして歩みを始めてから11年、地域と学校が一体となり、子どもたちの成長を支える数々の取組が積み重ねられてきました。その成果は、地域の誇りであり、未来への礎でもあります。私はこの4月に会長を拝命し、まだ1年の経験しかありませんが、少子化の進行により学園の在り方を改めて検討すべき時期に差しかかっていると強く感じています。これまでの11年の歩みを大切にしつつ、次の10年に向けて、地域と共に新たな形を模索し、持続可能な教育環境を築いていくことが私たちの使命だと考えています。そして、子どもたちの笑顔を守り続けるため、地域の知恵と力をさらに結集していきたいと思えます。

両小野学園 地域教育協議会長 神戸 保



平成23年、全国の先進地視察や、地域懇談会を重ね小中一貫教育「両小野学園」がスタートした。小中が連携し、互いに乗り入れながら、地域を巻き込んだ取組が注目された平成27年より、地域と学校がより深くつながり、豊かな子どもたちの成長をあと押しするコミュニティ・スクールが始まった。地域の皆さんが、行政の違いを乗り越え、学園の願いを共有しながら、組織の連携を密にし思いを行動で示すことができたと思う。更に学習支援を通じて、ボランティアが共に学ぶ喜びや、地域住民同士のつながりが深まり、交流の中で、地域課題にも目を向ける様にもなった。コミュニティ・スクールは学校のみでなく、地域を元気にしてくれる「原動力」にもなっていると思う。今後も子どもたちを真ん中に学園を支えて行きたい。



学校支援コーディネーター 青木 喜子

両小野学園では、小学校の頃から大豆作り・米作り・水の学習などで、たくさんの地域ボランティアさんに支えてもらっています。地域の皆さんは他にも登下校の見守り、「安心安全の家」の協力、環境整備で草刈りなどもしてくださっています。また、キャリア教育(職業体験等)や両小野の伝統や文化を伝えるクラブ講師やアントレプレナー講師となり、子ども達が地域への愛着を深め、人生が豊かになるお手伝いをしてきています。

ただ、「地域とともにある学校」を目指すこの素晴らしい仕組みがボランティアさんの高齢化という問題をかかえ持続可能な活動ではなくなりつつあります。ある一定の方だけでなく、まずは保護者や地域の方にコミュニティ・スクールをもっと知ってもらい、若い力も巻き込むことが大切だと思います。今はPR不足があるなあ・・・と感じます。また公民館との連携が必須だと感じています。なんなら学校の中に公民館があれば、地域の方も気軽に学校へ来れますし、地域の中心の場となりスクール・コミュニティさえも目指せるのでは？と期待してしまいます。

● 参考「地域と学校とで協働して育てたい子どもの姿」〈2017（平成29）年度策定〉

〈塩尻東小〉

- 自他を大切にでき、思いやり溢れる子ども〈自尊感情と愛他心の育成〉
- 心身ともに健康で、元気で意欲的な子ども〈前向きな生き方・人間関係構築力の育成〉
- 主体的に学び、チャレンジする子ども〈課題発見力・解決力や行動する力の育成〉

〈塩尻西小〉

- 自他を大切にでき、思いやり溢れる子ども〈自尊感情と愛他心の育成〉
- 他とのつながりを大切にしながら自分を的確・適切に表現できる子ども〈人間関係構築力の育成・人権感覚の育成〉
- あきらめず、前向きに生きられる子ども〈成功体験・チャレンジ精神の育成〉



〈塩尻中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども〈自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切に、様々な人と協働して活動ができる子ども〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性、自立心・自律心の育成〉

【塩尻中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 多様な人と協働しながら主体的に活動できる子どもの育成
- 心身ともに健やかで、自己実現に向け学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

〈桔梗小〉

- 心身ともに健やかで明るい子ども〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉
- 笑顔があふれ、心が優しい子ども〈前向きな生き方・人間関係構築力の育成〉
- 憧れを持ち、夢に向かう子ども〈より高い生き方を求め行動する力の育成〉

〈広丘小〉

- 挨拶等がしっかりでき、人とのつながりを大事にする子ども〈人間関係構築力の育成〉
- よく学び、体を鍛え、夢に向かい進む子ども〈学力向上・体力向上・キャリア教育推進〉
- 相手の気持ちが分かり、協調して活動ができる子ども〈愛他心・協調性・チームワーク〉

〈広陵中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども〈自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切に、様々な人と協働して活動ができる子ども〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性・自立心、自律心の育成〉



【広陵中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 多様な人と協働して活動できる子どもの育成
- 様々な課題を解決しながら、自己実現に向けて学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

〈片丘小〉

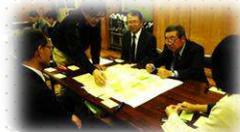
- 心身ともに健やかで明るい子ども〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉
- 挨拶等がしっかりでき、人とのつながりを大切にする子ども〈人間関係構築力の育成〉
- 主体的に学びに向かう子ども〈課題発見・解決力、自学力の育成〉

〈吉田小〉

- 社会の基本的ルールやモラルが守れ、相手を思いやれる子ども〈社会力・人間力の育成〉
- 自分の将来を描き、それに向かい動く子ども〈学力向上・体力向上・キャリア教育推進〉
- 自他の気持ちを理解し、協調して活動ができる子ども〈自尊感情・愛他心・協調性の育成〉

〈丘中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども
〈自尊感情の育成、自他を思いやる心、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども
〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切にし、様々な人と協働して活動ができる子ども
〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども
〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性・自立心、自律心の育成〉



【丘中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 心身ともに健やかで、多様な人と協働して活動する子どもの育成
- 自己実現に向け主体的に学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

〈宗賀小〉

- 心身ともに健やかで元気な子ども〈自尊感情の育成、健康的に生きる力の育成〉
- 思いやりにあふれ、助け合える子ども〈愛他心・協調性・人間関係構築力の育成〉
- 主体的・自主的に学べる子ども〈課題発見・解決力の育成、自学力の育成〉

〈洗馬小〉

- 挨拶等がしっかりでき、人とのつながりを大切にする子ども
〈自尊感情や愛他心の育成、人権感覚の育成、人間関係構築力の育成〉
- 主体的・自主的に学び、夢に向かい進む子ども
〈課題発見・解決力の育成、自学力の育成、キャリア教育の充実〉
- 自分の考えを的確に適切に伝えながら、他と協調して活動ができる子ども
〈コミュニケーション力、愛他心、協調性、チームワーク〉



〈塩尻西部中〉

- 心身ともに健やかでたくましい子ども
〈自尊感情の育成、タフに生き抜く力、社会力・人間力の育成〉
- 夢を持ち、夢の実現に向け努力する子ども
〈自ら学ぶ力・学び続ける力の育成、キャリア教育推進〉
- 人とのつながりを大切にし、様々な人と協働して活動ができる子ども
〈チームワーク、協調性、協働性、社会力の育成〉
- 自ら考え、適切に判断し、行動できる・語れる子ども
〈課題発見力、課題解決力、創造力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、自主性・自立心、自律心の育成〉

【塩尻西部中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 心身ともに健やかで、多様な人と協働して活動する子どもの育成
- 自己実現に向け主体的に学び続ける子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語れる子どもの育成

楡川中学校区〈楡川中・木曾楡川小〉⇒令和4年度より楡川小中学校（義務教育学校）

【楡川中学校区において小中一貫した9年間で育てたい子どもの姿〈3本柱〉】

- 温かい人間関係を築くことができる子どもの育成
- 心身ともにたくましく、自立し、未来を拓く子どもの育成
- ふるさと（地域）の過去と現在を学び、知り、誇りと愛着をもち、地域の未来を拓き・語る子どもの育成

【両小野中学校区〈両小野学園〉において保小中一貫した12年間で育てたい子どもの姿】
ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる子ども
～輝く「あいさつ」・響き合う「歌声」・深まる学び～

〈両小野小（辰野町塩尻市小学校組合立）〉

「たのめの里に生き、たのめの里の未来を切り拓く子どもの育成」

- 「たのめ科」の充実
 - ・地域を知り、地域の方から伝統を継承し学び、地域を愛する子の育成
- 保小中一貫のために
 - ・「保小一貫」：校内巡り、プール交流、給食の試食、児童会祭り招待
 - ・「小中一貫」：6年生の中学校登校〈1ヶ月間〉、地域美化活動
 - ・「保小中一貫」：学園音楽祭



〈両小野中（塩尻市辰野町中学校組合立）〉

「たのめの里に生き、たのめの里の未来を切り拓く子どもの育成」

- アントレプレナー学習、プリリアント学習を通し
 - *地域を知り、地域の活性化について考え、人々と関わることで故郷を大切に思い、さらに好きになる。
- 「夢プロジェクト生徒会」
 - *アントレプレナー学習で見いだされた課題を、全校の活動にしていく、地域貢献型の両小野中モデルの生徒会を構想していく。



〈北小野保育園（塩尻市立）〉

- よりよい環境のもとで、のびのび過ごし、発達に応じた活動の積み重ねを行える保育園
- 子どもの個性や特性を大切にし、もっている力を十分に発揮し生活できるよう一人ひとりに応じた支援ができる保育園
- たのめの里の歴史ある郷土の文化を大切にし、「太鼓活動」や「地域ボランティアの保育園参加」を通して、地域を知り地域を愛する心を育てる保育園



〈小野保育園（辰野町立）〉

- 安心して預けられる保育園
- 一人ひとりの子どもの適切な援助ができる保育園
- 保護者と共に子どもの成長を支援する保育園
- 地域ボランティアの協力のもと、地域を知り、地域を愛する心豊かな子どもの育成



塩尻市内の全小中学校に学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクール活動が開始された平成28年度、学校運営協議会の熟議の中で「地域と学校とで協働し、どのような子どもを育てていくのか、その具体的なイメージを地域と学校とで共有する必要がある。」という意見が多く出され、翌年度（平成29年度）第1回目学校運営協議会の熟議（グループワーク）を通し各校のものが策定され、また第2回目の中学校区内小中合同学校運営協議会では「小中の9年間を通し、地域学校協働体制・活動により育てたい子どもの姿（資質・能力）」が策定されました。これらの「姿（資質・能力）」は策定後10年を経過した現在でも各CS活動を推進・評価していく上の指標となっています。

塩尻市教育委員会の窓から



2025年度塩尻市コミュニティ・スクール実践集のテーマ

10年間の成果を感じ、10年先を見据える

～これまで積み上げたものを次の時代につなげよう～

塩尻市コミュニティ・スクール（以下「コミスク」）が始まって今年で10年目となりました。上記のようなテーマを掲げ、様々な話し合いの場で10年を振り返り、成果や課題を共有し、これから10年先を見据えてどんなことができそうか、話し合う機会がつけられました。

今年度の実践集は、これまでの10年の歩みを振り返ることができるように、学校ごとに10年間の取組をまとめてみました。教頭先生を中心にまとめていただいた取組の様子は、1年間の中では大きな変化を感じる事が少なくても、10年間を続けて見てみると、地道に、着実に歩んできたことによる大きな力を感じることができます。その時その時の子どもたちの成長や学び、関わる先生方、保護者や地域の皆さんの様々なつながりによってこれだけの大きな力になることを実感できると共に、これから先に関わる人がかわっても、地道に着実に取り組んでいくことが、10年先につながっていくことを実感しました。また、コミスクの中心になって関わっていただいている学校運営協議会や地域教育協議会の会長さん、学校支援コーディネーターさんからも特別寄稿として書いていただいています。関わる期間に長短はあっても、その中で直に感じた思いや願いは今後につながる大事なものが詰まっています。

これまで塩尻市のコミスクに温かく関わっていただいた多くの皆さんに感謝を申し上げますと共に、今後も「できることを、できる時に」関わる人が増え、様々な立場の大人が共に語り合いながら、楽しみながら一緒に創っていくことで、子どもたちの笑顔あふれる成長や、つながりのある元気な地域になっていくことを願っています。

1 進化するコミスク

第3回学校運営協議会は、各学校で今年度を振り返り、成果や課題を生かして来年度への準備を進める会議として、どの小委員会や協議会でも、学校の熱い思い、地域の受け止め、もっとこうしたらというアイデア等が出されていました。これからもう一步進化するために、形ややり方などを変えてみようという動きが様々なところで見られます。自分たちの学校に合った形で、より活動を広げたり、学びを深めたりしていけるように、また、学校の願いを理解してより強い協力体制で充実した活動にしていけるように、見直しできるところはしていきましょう。

動きのある例をいくつか挙げてみます。

学校運営協議会

- 学運協委員の皆さんが参加しやすい時間帯に行く（第2回は先生方が参加しやすい時間帯に）。時間を変えて開催してみる。
- 熟議のテーマをより具体的なもの、誰もが気軽に意見が言えるものにしていく。
- 話し合いの様子や内容を先生方、欠席の委員さん、地域の方に共有していく。
- 全4回の見通しをもって進め、次年度に生かせるようにしていく。
- 一体的な取組を行うために学運協と地教協を一つの組織にしていく。
- 一年間を通して取り組む目標（キャッチフレーズ）を考える。

地域教育協議会（地域学校協働本部）

- ・ボランティアの皆さんへの連絡方法の見直し（LINE スクールのお試し）。
- ・ボランティアの内容をより具体的に、できるだけ早めに伝えていく。
- ・保護者・PTA の皆さんにも内容を周知して、関わってもらえる人を増やす。
- ・関わっていただいた様子や成果をボランティア・保護者・PTA・地域の皆さん・先生方に周知できるようにする（CS フェスタやお礼の会の工夫）。
- ・一年間を通して取り組む目標（キャッチフレーズ）を考える。

今回の会議を通して、コミスクの取組の周知という点が、ポイントになってきていると感じました。まず、学校運営協議会の委員の皆さんにしっかり周知されているか、また周知されたことをそれぞれの立場で発信していただいているか。学校の先生方への周知はどうか。ボランティアの皆さん、地域の皆さんにどれだけ周知されているか。この点を今一度見直していきたいと考えています。

来年度から第6期（11・12年目）がスタートします。改めて、学校運営協議会委員の皆さんに役割や内容が分かるように、これまで続けている方にも確かめができるように「手引き」を作って配布する予定です。

2 11年目のスタートに当たって

来年度より、コミスクに関わる名称の変更と確認をお知らせします。

その1

- 支援から連携・協働、参画の取組みになってきている今、これからも更に協働の取組みが進められるよう、学校支援という言い方をやめます。

学校支援ボランティア → **CS ボランティア**

学校支援コーディネーター → **CS コーディネーター**

学校とボランティアの皆さんとの関係は対等、共に子どもたちのために取り組むパートナーです。そのために「CS ボランティア」という名前にしていきます。

「CS コーディネーター」は、コミスクの地域コーディネーターと地域学校協働活動推進員を合わせた役割です。今後も幅広く学校と地域をつなげていきます。

その2

- 活動に関わる大人が様々な立場の人になりつつあり、今後も更に様々な職種や立場の人々とつながっていく可能性があります。以下の名称は引き続き使用していきますが、国が発信している言葉と同じ内容であることを知っていただき、CS 活動の内容の充実に役立てていってください。

地域教育協議会（＝地域学校協働本部） **CS 活動（＝地域学校協働活動）**

地域学校協働活動とは、地域住民、学生、保護者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えると共に、「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

★塩尻市コミュニティ・スクールに関するお問い合わせは、下記までお願いします。

塩尻市教育委員会 学校教育課 教育企画係（地域連携コーディネーター）

〒399-0738 長野県塩尻市大門七番町4番3号

Tel (0263)52-0280 (代) 内線 3111 FAX (0263)52-4354